

ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 31



1998

沖縄県立博物館

序

平成9（1997）年度は、以下のような博物館事業をおこないました。

特別展は、年度初めの4月25日から6月8日まで、「アルゼンチンの大恐竜展」を開催しました。この特別展では、南米に産出する恐竜化石を中心とした古生物を展示しました。日本で初公開の恐竜化石に、3万人余りの観覧者があり、多くの子どもたちも訪れ、好評を博しました。

企画展は、7月29日から8月31日まで、「平成8年度新収蔵品展」を開催いたしました。また、教育委員会文化課の主催で、11月1日から16日の期間、史跡首里城跡「京の内」の出土品展を開催し、中国やタイ産の陶磁器を展示しました。とくに、日本で初めての紫色の紅釉水注は、注目を集めました。

第22回を迎えた移動博物館は、10月17日から19日までの3日間、与那国島の与那国小学校体育館で開催しました。文化講座は「与那国の昆虫」と題して、琉球大学の東清二氏が与那国中央公民館で講演し、あわせて自然観察会を催しました。のべ1,300人近くの方々が移動博物館の事業に参加され、成果をおさめました。

恒例の博物館文化講座は、第270回から第279回まで、計10回実施しました。本年度で290回を終えることになり、来年度は、記念すべき300回を迎える実績となります。関連講座の夏休み「歩く、見る、作る」教室は、「親子でスケッチをしよう」と「古代人の生活を体験しよう」を行いました。本年度からは、「夏休み親子文化講座」の名称で継続されます。

子ども体験学習教室は、「豆とサトウキビづくり」（通年で4回の体験教室）、「昆虫標本づくり」、「シーサーづくり」、「連鳳をつくろう」をそれぞれ実施し、子どもたちは野外でのサトウキビ植え付けや草とり、豆腐づくり、昆虫採集など、体験学習や各作品の完成に力を注いでいました。

博物館シアターはアイヌ文化のドキュメント作品、夏休みのアニメシリーズと日本名作映画を、計7回上映しました。

今後とも、当館では、特別展や企画展などの展示活動、文化講座や体験学習など、各種の教育普及的事業を充実させていく所存です。なお一層のご助言、ご協力をお願い申しあげます。

平成10（1998）年7月20日

沖縄県立博物館
館長 當間 一郎

目 次

序.....	館長 當間 一郎
I 概 要	
1 沿 革.....	1
2 施設・設備.....	3
3 組 織.....	5
4 予 算.....	7
II 入館者数	
1 入館者数.....	8
2 県内外児童生徒学生団体見学者.....	11
III 調査研究等の活動	
1 調査研究の概要.....	13
2 波照間島総合調査.....	13
3 調査研究.....	16
4 講演等.....	18
5 著作論文.....	20
6 職員研修.....	22
IV 展示活動	
1 展示活動の概要.....	26
2 常設展.....	26
3 特別展.....	30
4 企画展.....	34
新収蔵品展.....	34
史跡首里城跡「京の内」の出土品展.....	36
5 移動博物館.....	38
V 教育普及活動	
1 教育普及活動の概要.....	43
2 博物館文化講座.....	43
3 夏休み「歩く・見る・作る」教室.....	47
4 衛星通信を利用した体験学習講座.....	48
5 博物館シアター.....	49
6 子ども体験学習教室.....	50
7 ボランティア活動.....	52
8 博物館を利用した研修.....	54
VI 収蔵資料	
1 収蔵資料現在高.....	55
2 平成 9 年度（1997）新収蔵資料高.....	55
3 平成 9 年度（1997）新収蔵資料目録.....	56
4 所蔵国県指定文化財.....	58
5 博物館収蔵資料整理事業.....	59
VII 刊行物.....	
	61

VIII その他の活動

1 資料貸出.....	62
2 燻蒸処理.....	63
3 沖縄県立博物館協議会.....	64
4 沖縄県博物館協会.....	65
5 博物館実習.....	66
6 沖縄県立博物館友の会.....	68
IX 日誌抄.....	71
X 関係法規抄録.....	73

I 概 要

1 沿革

〔前史〕昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」と改称。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同47年（1972）の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973）、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

〔主な事項〕

- 昭和21年（1946） 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。
- 昭和22年（1947） 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管、「沖縄民政府立首里博物館」と改称。
- 昭和28年（1953） 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。
- 昭和30年（1955） 9月「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」と改称。
- 昭和40年（1965） この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）購入。
- 昭和41年（1966） 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移設。11月に開館。
- 昭和47年（1972） 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。
5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。
- 昭和48年（1973） 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増設。
- 昭和51年（1976） 4月、創立30周年記念式典を行う。
- 昭和55年（1980） 1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。
2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施。
11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。
- 昭和56年（1981） 3月30日付で博物館法に基づき登録。
- 昭和57年（1982） 10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。
- 昭和58年（1983） 5月新たに常設展として自然部門を設ける。
10月、特別展「熊本県・沖縄交流展—熊本の歴史と文化」開催。
11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美—風土と美術工芸」

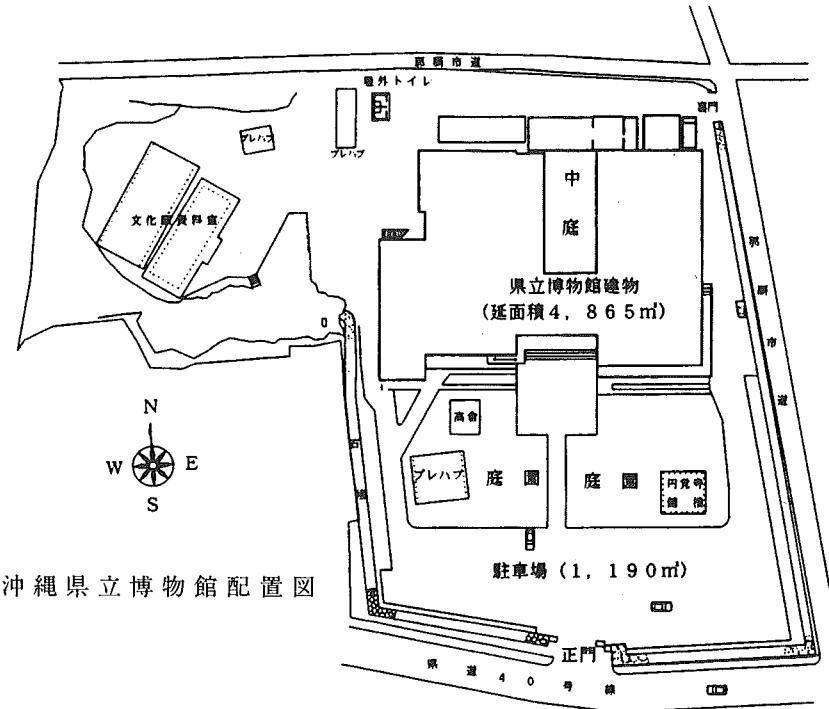
- を熊本県立美術館にて開催。
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「美術工芸の美を求めて－大嶺薰コレクション」開催。
- 昭和62年（1987） 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画－物故作家」開催。
12月、企画展「田名家所蔵品展－ある首里士族の400年」開催。
12月、企画展「現代沖縄の陶芸－天野鉄夫コレクション」開催。
- 昭和63年（1988） 8月、特別展「ヤンバルの自然」を開催。
11月、特別展「三線名器 100挺展」開催。
- 平成元年（1989） 11月、「インドネシア更紗展」を開催。
- 平成2年（1990） 1月、特別展「大アンデス文明展」開催。
- 平成3年（1991） 10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。
- 平成4年（1992） 6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。
8月、特別展「沖縄の貝類展」開催。
10月、特別展「琉球王国展」開催。
- 平成5年（1993） 1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催。
8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。
- 平成6年（1994） 7月、特別展「子どもの世界」開催。
- 平成7年（1995） 6月、特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。
- 平成8年（1996） 7月、特別展「大久米島展」開催。
12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催。
創立50周年式典を行う。
- 平成9年（1997） 4月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催。

歴代館長

〔東恩納博物館〕 大嶺 薫（昭和21・4～28・3）	〔首里博物館〕 豊平 良顕（昭和22・12～23・3） 原田 貞吉（昭和23・8～28・3）
-------------------------------	--

原田 貞吉（昭和28・3～30・5）
 山里 永吉（昭和30・3～33・8）〔琉球政府立博物館〕
 金城増太郎（昭和33・9～36・12）
 大城 知善（昭和37・2～44・11）
 外間 正幸（昭和44・12～56・3）〔沖縄県立博物館〕
 大城徳次郎（昭和56・4～61・3）
 大城 立裕（昭和58・4～61・3）
 大城 宗清（昭和61・4～平成4・3）
 宜保榮治郎（平成4・4～6・3）
 糸数 兼治（平成6・4～8・3）
 當間 一郎（平成8・4～）

2 施設・設備



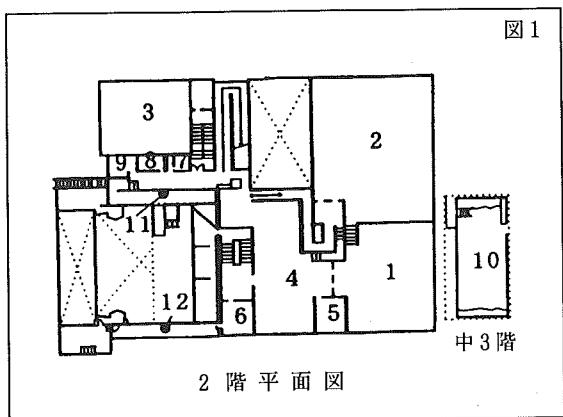
施設規模

●敷地面積	11,267 m ²
●建物延べ面積	4,865 m ²
1階及び講堂部分	2,893 m ²
2階部分	1,571 m ²
地下部分	401 m ²
●展示面積	1,590 m ²
1階	632 m ²
2階	958 m ²
●ロビー面積	256 m ²
●収蔵庫面積	858 m ²
●駐車場面積	1,190 m ²
●庭園面積	1,612 m ²
●講堂	632 m ²
客席数	215席
●空調機能力	
ヒートポンプ式チーリングユニット	
	125,000Kcal/h × 2基

●エアハンドリングユニット	6基
●パッケージ型エアコン	
56,000Kcal/h × 1基	
28,000Kcal/h × 1基	
20,000Kcal/h × 1基	
8,400Kcal/h × 1基	
7,100Kcal/h × 2基	
5,000Kcal/h × 2基	
2,000Kcal/h × 1基	
1,200Kcal/h × 1基	
●受変電設備	
電灯Tr 1φ3W 30KVA × 1基	
電灯・動力Tr 3φ4W 100KVA × 1基	
動力Tr 3φ3W 250KVA × 1基	
●契約電力	187KW

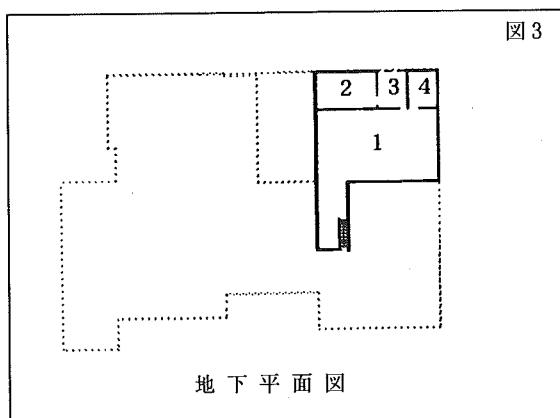
【2階】

番号	室名	
1	美術工芸展示室	265m ²
2	民俗展示室	436m ²
3	漆器収蔵庫	170m ²
4	企画展示室	257m ²
5	空調機械室	29m ²
6	コンピューター室	59m ²
7	化粧室(女)	6m ²
8	化粧室(男)	11m ²
9	空調機械室	12m ²
10	化石収蔵庫(中3階)	120m ²
11	貝類収蔵室	25m ²
12	陶器収蔵室	36m ²
13	その他	145m ²



【1階】

番号	室名	
1	事務室	115m ²
2	会議室	96m ²
3	考古・歴史展示室	462m ²
4	自然史展示室	170m ²
5	収蔵庫	120m ²
6	荷解場	32m ²
7	陶磁器収蔵庫	11m ²
8	中庭	152m ²
9	厨子甕収蔵庫	91m ²
10	休憩室	11m ²
11	湯沸室	8m ²
12	化粧室(女)	7m ²
13	化粧室(男)	9m ²
14	図書室	28m ²
15	館長室兼応接室	28m ²
16	案内コーナー	18m ²
17	講堂(客席)	428m ²
18	ステージ	116m ²
19	控室	19m ²
20	控室	32m ²
21	講堂出入口	37m ²
22	守衛室	14m ²
23	ロビー	256m ²
24	倉庫	14m ²
25	化粧室(女)	21m ²
26	化粧室(男)	11m ²
27	友の会売店	10m ²
28	空調機械室	11m ²
29	消火栓ポンプ室	5m ²
30	厨子甕収蔵室	75m ²
31	身障者用トイレ	6m ²

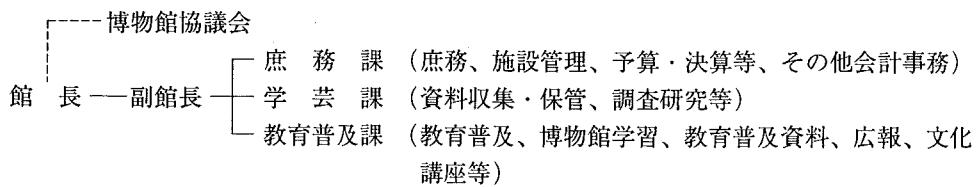


【地階】

番号	室名	
1	収蔵庫	285m ²
2	空調機械室	58m ²
3	荷解場	28m ²
4	受変電設備	30m ²

3 組織

(1) 組織



(2) 職員構成

職名	氏名	担当業務
館長	當間一郎	博物館業務の総理に関する事。
副館長	新垣隆雄	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関する事。

庶務課

主幹兼課長	津波古典子	庶務課の総括、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関する事。
主査	宮城直子	会計事務（旅費・報償費・超勤手当を除く）、決算事務文書等の收受、切手等の管理に関する事。
主査	平安名寿賀子	給与、歳入、会計事務（旅費・報償費・超勤手当）、諸手当の認定、出勤簿整理、非常勤職員の任用申請、図書類・消耗品受け入れに関する事。
主任技師	真保栄勝	施設設備の保守管理、全館燻蒸、車両の管理、防火管理補助、その他庶務に関する事。

学芸課

課長	大城慧	学芸業務全般の総括、考古資料、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖博協に関する事。
主任学芸員	與那嶺一子	美術工芸資料（染織・書跡）、収蔵品台帳、博物館年報の発行、博物館資料・写真資料貸出、レプリカ作成、博物館資料購入・修理、包むこころふろしき展
学芸員	萩尾俊章	歴史資料、レプリカ作成、博物館資料購入・修理、博物館年報の発行に関する事。
指導主事	神谷厚昭	自然史資料（地質・化石）、化石資料整理、沖博協の書記・会計に関する事。
〃(充)	与那城義春	自然史資料（植物・動物）、総合調査、図書資料購入、教育普及及書・博物館紀要の発行、新収蔵品展に関する事。
〃(〃)	嵩原建二	自然史資料（植物・動物）、収蔵資料整理（管理システム）、琉球王国時代の植物標本展、剥製標本に関する事。
〃(〃)	津波古聰	美術工芸資料（絵画・漆器・陶器）、収蔵資料整理（写真等）、新収蔵品展、沖縄館資料移管プレハブ建設に関する事。
〃(〃)	太田健一	民俗資料、収蔵資料整理、沖縄館資料移管及びプレハブ建設に関する事。

教育普及課

課長	前田 真之	教育普及業務の総括、友の会への指導に関すること。
指導主事(充)	瑞慶山 昇	美術工芸資料（彫刻）、移動博物館、博物館シアター、教育普及機器整備、全館燻蒸、ポスター・チラシ等の作成、視聴覚教材（ビデオ）の保全・管理。
指導主事	仲底 善章	子供体験学習教室、博物館学習の助言・調整、団体見学（小・中学校）の対応、博物館展示リーフレットの作成図書購入、子供からの手紙相談に関すること。
指導主事(充)	伊波 悅子	ボランティア活動事業（登録含む）団体見学・質問等（高校・大学）の対応、アンケート調査・回答、美術工芸資料、教育福祉に関する情報・提供（行事案内）。
学芸員(臨任)	宮平 真由美	文化講座、広報活動（マスコミ記者会見等）、夏休み親子文化講座、博物館だよりの発行、考古に関すること。

委託職員

教育普及補助員	上原 敏子 喜久川 智子	教育普及、展示解説、寄贈図書受入れに関すること。
監視員	東城 美智子 新城 民子 新城 良子	受付補助及び展示場監視に関すること。
	小橋川 敏子 松田 昌子 比嘉 春子	展示場監視に関すること。
緑化整備員	渡慶次 紫宝	緑化整備に関すること。

沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計に関すること。
-------	--------	--------------------

(3) 人事異動

平成10年4月1日現在

職名	氏名	摘要
【転出】 庶務課長 主幹兼学芸課長 主査 主任技師	上地 泰順 當真元里 吉	教育庁生涯学習振興課 主幹兼係長へ（昇任） 教育庁文化課課長補佐へ 教育庁福利課主査へ 県消防火災課主任技師へ
【転入】 主幹兼庶務課長 学芸課長 主査 主任技師 指導主事(充)	津波古 典子 大宮城直 真保栄伊 波悦子	教育庁全国スポーツ・レクレーション事務局主査から（昇任） 教育庁文化課係長から 教育庁高等学校教育課主査から 県下水道管理事務所主任技師から 首里高等学校教諭から

4 予 算

平成 9 年度博物館費（決算）

(単位：円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	120,900	0	120,900
賃金	0	3,185,510	3,185,150
報償費	0	1,098,000	1,098,000
旅費	1,690,874	5,071,777	6,762,651
需用費	24,368,130	10,368,632	34,736,762
役務費	634,366	7,079,095	7,713,461
委託料	19,456,880	26,954,667	46,411,547
使用料及び賃借料	1,187,875	16,813,098	18,000,968
工事請負費	0	0	0
備品購入費	6,130,265	2,005,000	8,135,265
負担金補助及び交付金	75,000	0	75,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	53,683,190	72,575,774	126,258,964

平成 9 年度歳入状況（決算）

(単位：円)

	友の会	特別展等	合計
博物館使用料	0	15,594,260	15,594,260
土地使用料	13,548	0	13,548
建物使用料	26,223	0	26,223
雜入	254,415	0	254,415
合計	294,186	15,594,260	15,888,446

II 入館者数

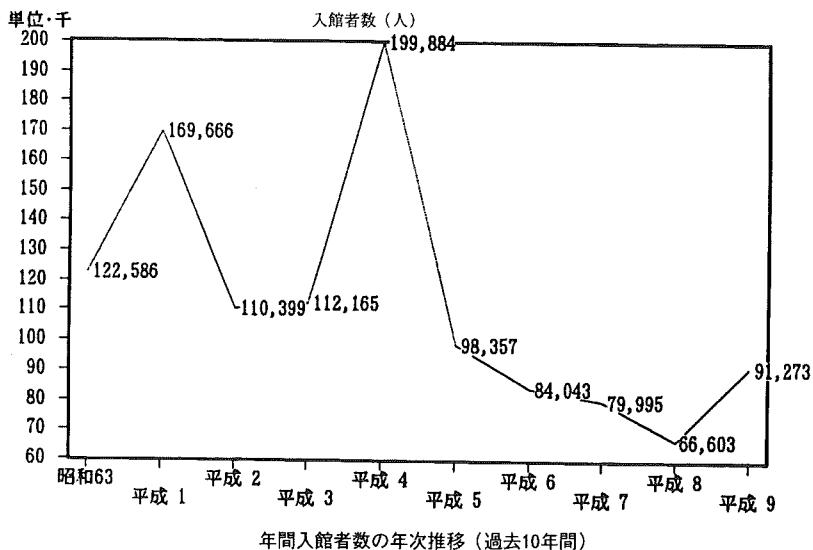
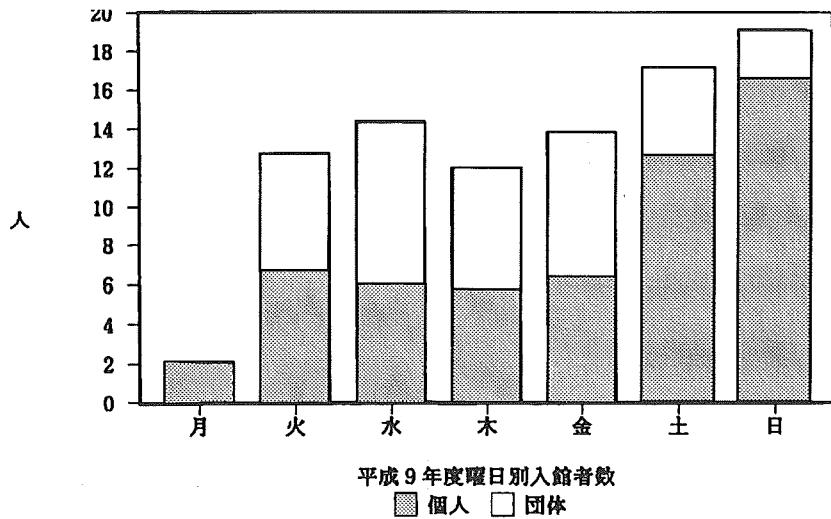
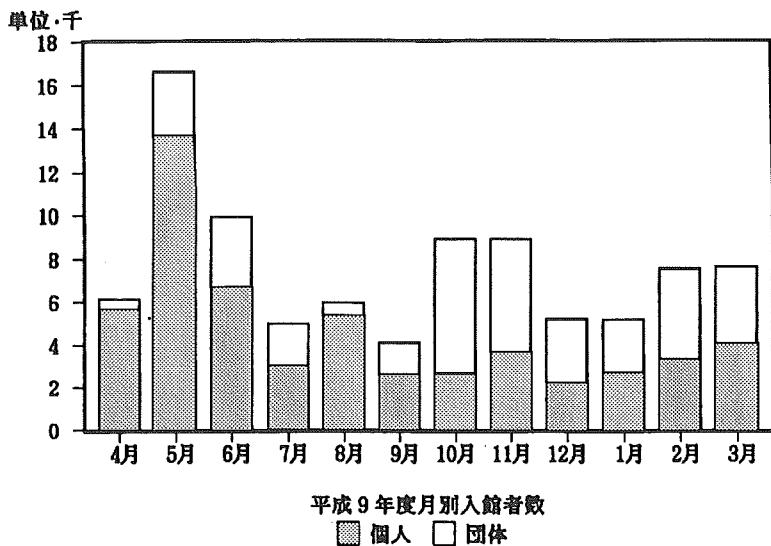
1. 入館者数（平成9年4月1日～平成10年3月31日）

入館者月別集計

	合 計														
	個 人 入 館 者 数			團 体 入 館 者 数			大 人			高 大 生			小 中 生		
	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料
9年 4月	3,368 (148)	161 (0)	2,018 (0)	5,547 (148)	87 (0)	102 (0)	126 (63)	315 (63)	3,495 (148)	263 (0)	2,144 (63)	5,862 (211)	11	552	
5月	7,753 (844)	929 (0)	4,114 (0)	12,796 (844)	540 (0)	122 (6)	1,742 (564)	2,404 (570)	8,293 (844)	1,051 (6)	5,856 (564)	15,200 (1,414)	27	615	
6月	3,074 (850)	563 (0)	1,834 (413)	5,471 (1,263)	434 (26)	1,078 (8)	1,268 (380)	2,780 (408)	3,508 (870)	1,641 (8)	3,102 (793)	8,251 (1,671)	14	709	
7月	2,306 (0)	276 (0)	466 (7)	3,048 (7)	983 (8)	637 (0)	104 (215)	1,724 (223)	3,289 (8)	913 (0)	570 (222)	4,772 (230)	22	227	
8月	3,499 (4)	705 (0)	1,230 (0)	5,434 (4)	100 (0)	55 (0)	219 (187)	374 (167)	3,599 (4)	760 (0)	1,449 (167)	5,808 (171)	25	239	
9月	2,058 (0)	483 (4)	101 (13)	2,652 (17)	240 (18)	562 (106)	382 (132)	1,184 (256)	2,308 (18)	1,045 (110)	483 (145)	3,836 (273)	23	179	
10月	2,205 (0)	374 (0)	109 (5)	2,688 (5)	516 (163)	2,466 (100)	508 (2,512)	3,490 (2,775)	2,721 (163)	2,840 (1,000)	617 (2,517)	6,178 (2,750)	26	345	
11月	3,020 (0)	427 (2)	184 (50)	3,631 (52)	437 (11)	2,078 (0)	475 (2,243)	2,990 (2,254)	3,457 (11)	2,505 (2)	659 (2,293)	6,621 (2,306)	25	357	
12月	1,890 (0)	249 (0)	85 (0)	2,224 (0)	318 (0)	1,866 (2)	287 (543)	2,471 (545)	2,208 (0)	2,115 (2)	372 (543)	4,695 (545)	22	238	
10年 1月	2,256 (0)	251 (0)	166 (0)	2,673 (0)	354 (39)	450 (239)	164 (1,230)	968 (1,508)	2,610 (39)	701 (239)	330 (1,230)	3,641 (1,508)	22	234	
2月	2,633 (0)	572 (0)	133 (31)	3,318 (31)	366 (0)	888 (0)	211 (2,787)	1,465 (2,787)	2,999 (0)	1,460 (0)	324 (2,818)	4,783 (2,818)	23	330	
3月	3,030 (0)	676 (0)	394 (19)	4,100 (19)	548 (0)	2,616 (0)	108 (308)	3,272 (308)	3,578 (0)	3,392 (0)	502 (327)	7,372 (327)	25	380	
合 計	37,102 (1,846)	5,666 (6)	10,814 (538)	53,582 (2,390)	4,923 (259)	12,920 (461)	5,594 (11,144)	23,437 (11,864)	42,025 (21,105)	18,586 (467)	16,468 (11,682)	77,019 (14,254)	265		
総 計	38,948	5,672	11,352	55,372	5,182	13,381	16,738	35,301	44,130	19,053	28,090	91,273	265	344	

入館者曜日別集計

	合 計															
	個 人 入 館 者 数			團 体 入 館 者 数			大 人			高 大 生			小 中 生			
	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)
曜	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)	有 料	(無 料)
月	1,215 (79)	72 (0)	719 (0)	2,006 (79)	21 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (0)	1,236 (79)	72 (0)	719 (0)	2,027 (79)	2	1,053		
火	4,484 (111)	772 (0)	1,254 (0)	6,510 (111)	689 (48)	2,165 (31)	996 (2,204)	3,850 (2,283)	5,173 (159)	2,937 (31)	2,250 (2,204)	10,350 (2,394)	39	327		
水	4,277 (32)	1,171 (0)	526 (0)	5,974 (32)	401 (17)	4,228 (240)	849 (2,643)	5,478 (2,900)	4,678 (49)	5,399 (240)	1,375 (2,643)	11,452 (2,332)	44	327		
木	4,268 (45)	812 (0)	550 (0)	5,630 (45)	584 (77)	1,974 (34)	1,020 (2,647)	3,578 (2,758)	4,852 (122)	2,766 (34)	1,570 (2,647)	9,298 (2,803)	43	279		
金	4,868 (51)	863 (0)	570 (0)	6,301 (51)	974 (38)	2,831 (28)	1,391 (2,136)	5,196 (2,232)	5,842 (139)	3,694 (28)	1,861 (2,136)	11,497 (2,303)	45	307		
土	8,098 (614)	1,081 (6)	2,801 (135)	11,980 (655)	1,324 (0)	906 (28)	1,033 (1,187)	3,263 (1,215)	9,422 (514)	1,987 (34)	3,834 (1,322)	15,243 (1,870)	47	364		
日	9,892 (1,014)	895 (0)	4,394 (403)	15,181 (1,417)	930 (29)	816 (100)	305 (327)	10,822 (1,043)	1,711 (100)	4,689 (730)	17,232 (1,873)	45	425			
合 計	37,102 (1,846)	5,666 (6)	10,814 (538)	53,582 (2,390)	4,923 (259)	12,920 (461)	5,594 (11,144)	23,437 (11,864)	42,025 (21,105)	18,586 (467)	16,408 (11,682)	77,019 (14,254)	265	344		



団体入館者数（有料）

年 月	県 内				県 外				國 外				合 計													
	大 人		高大生		小中生		小 計		大 人		高大生		小中生		小 計											
	团 体 数	人 数																								
平成9年4月	2	3	69	3	71	3	85	2	102	1	57	6	244			0	9	315								
5月	6	448	4	122	29	1,623	39	2,193	4	92	2	119	6	211		0	0	2,404								
6月	5	261	3	470	14	1,263	22	1,999	5	173	5	608		10	781		0	0	2,780							
7月	5	160		2	44	7	204	10	797	4	637	1	52	15	1,486	1	26	8	1	34	23	1,724				
8月	4	56		2	5	199	9	257	2	44	1	53	1	20	4	117			0	0	13	374				
9月		1		20		1		20	9	240	5	542	3	382	17	1,164			0	0	18	1,184				
10月	6	256		2	50	8	306	5	143	13	2,445	4	457	22	3,045	3	117	1	21	1	4	139	34	3,490		
11月	7	290	2	76	1	98	10	464	6	147	11	2,002	5	377	22	2,526			0	0	0	0	2,990			
12月	2	76		2	67	4	143	9	242	11	1,866	2	220	22	2,328			0	0	0	0	2,471				
平成10年1月	2	163	1	48		3	211	7	191	3	402	1	164	11	757			0	0	0	0	968				
2月	3	137		1	20	4	157	9	229	4	888	2	191	15	1,308			0	0	0	0	1,465				
3月	5	147		1	68	6	215	13	335	21	2,614		28	34	2,977	2	66	2	12	2	80	42	3,272			
合 計	45	1,996	11	738	60	3,506	116	6,240	82	2,718	80	12,159	22	2,067	184	16,944	6	209	1	23	0	21	7	253	307	23,437

移動博物館入館者数（1,284人）

2. 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 12,029名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名		
4	29	津霸小学校	20名	10	17	伊豆味小学校	11名	12	伊江小学校	36名
30		城西小学校	20名			百名小学校	52名	24	城西小学校	131名
5	2	光洋小学校	119名			上本部小学校	39名	1	よみ小学校	119名
		南風原小学校	113名	19		与那国小学校	17名	13	よみ小学校	94名
		坂田小学校	134名	23		宜野座小学校	36名	14	曜小学校	94名
16		多良間小学校	31名			嘉芸小学校	39名	16	上田小学校	145名
20		鏡原小学校	38名	24		羽地小学校	80名	17	真地小学校	99名
		アメリカエアハーツスクール	41名			宮森小学校	108名	20	古蔵小学校	149名
23		真和志小学校	132名			瀬底小学校	23名	21	与儀小学校	127名
24		来間小学校	46名			安富祖小学校	18名	22	松川小学校	154名
27		ズケランエレメンタリースクール	99名			久良貞小学校	9名	23	喜屋武小学校	24名
29		カデナエレメンタリースクール	39名	25		和光小学校	114名	28	城西小学校	150名
		ステアリー・エレメンタリースクール	114名	29		東江小学校	127名	29	沖縄三育小学校	29名
30		沖縄三育小学校	20名			真喜屋小学校	27名	3	神原小学校	93名
31		垣花小学校	72名	30		伊波小学校	153名	4	高良小学校	198名
		西城小学校	29名			翔南小学校	91名	5	長嶺小学校	116名
		大道小学校	120名	31		屋良小学校	79名	5	天妃小学校	105名
6	3	カデナエレメンタリースクール	100名			中川小学校	13名	6	識名小学校	140名
		石嶺小学校	10名			天底小学校	36名	6	沢郷小学校	91名
4		ペクトル小学校	30名			大北小学校	130名	7	宇栄原小学校	107名
		ズケランエレメンタリースクール	194名			浜川小学校	103名		久茂地小学校	41名
5		高良小学校	191名			潮平小学校	131名		城東小学校	126名
		カデナエレメンタリースクール	27名	11	1	大宮小学校	194名		大名小学校	64名
		平真小学校	89名			石嶺小学校	150名		若狭小学校	105名
		南小学校	110名	2		本部小学校	160名	10	光洋小学校	101名
		平真小学校	89名			和光鶴川小学校	80名	10	前田小学校	121名
6		上間小学校	155名	5		上間小学校	164名	13	西原東小学校	97名
		カデナエレメンタリースクール	28名			比川小学校	6名	17	城岳小学校	117名
		キンザエレメンタリースクール	115名			山内小学校	112名		神森小学校	95名
7		北小学校	75名			辺土名小学校	50名	19	西崎小学校	149名
21		福嶺小学校	19名			清水小学校	42名	18	金武小学校	216名
26		伊野田小学校	8名	6		久辺小学校	43名	20	真和志小学校	116名
		竹富小学校	10名			山田小学校	24名	22	内間小学校	22名
7	1	石垣小学校	93名			北玉小学校	88名	24	西原小学校	66名
8		中城小学校	105名			仲里小学校	54名	25	安謝小学校	83名
9	24	城西小学校	132名			西小学校	49名	25	西原小学校	62名
10	2	大山小学校	187名	7		水納小学校	5名	26	城南小学校	107名
4		浦城小学校	170名			安和小学校	19名	26	湧川小学校	13名
5		白保小学校	26名	11		喜如嘉小学校	17名	27	松島小学校	143名
8		屋我地小学校	31名			大里北小学校	96名	3	西原南小学校	107名
		稻田小学校	29名	12		奥間小学校	31名	4	城北小学校	66名
		塩屋小学校	23名			当山小学校	150名	5	城北小学校	130名
		佐敷小学校	64名	18		有銘小学校	13名	17	琉大附属小学校	112名
		与那原小学校	97名	19		三原小学校	5名	19	真嘉比小学校	52名
9		久志小学校	10名	20		港川小学校	150名			
		今帰仁小学校	68名	28		金武小学校	96名			
		中の町小学校	111名	2		泊小学校	150名			
14		島袋小学校	50名	5		美東小学校	160名			
		赤道小学校	129名	10		松田小学校	25名			
16		馬天小学校	91名			兼次小学校	34名			
17		伊平屋小学校	24名	12		漢那小学校	19名			
		与那原東小学校	106名			喜瀬武原小学校	6名			

(中学校) 3,048名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名		
5	1	浜中学校	22名	9	19	益城中学校	154名	11	御所浦中学校	47名
2		伊計中学校	20名		27	旭志中学校	75名	21	九州女学院中学校	57名
		昭和薬科大学附属中学校	132名	10	9	菊陽中学校	190名	26	伊波中学校	121名
13		東風平中学校	32名	14		海星中学校	101名	12	芸北中学校	41名
14		武庫中学校	92名	21		久高中学校	4名	3	沖縄クリスチヤンスクール	33名
		山田中学校	32名	22		小禄中学校	20名	13	立命館中学校	150名
15		大和中学校	27名	23		聖ウルスラ学院中学校	52名	1	湯川中学校	163名
30		首里中学校	22名	11	1	沖縄カトリック中学校	73名	2	大野中学校	27名
31		石嶺中学校	193名	5		本部中学校	168名	5	糸田中学校	159名
6	3	石嶺中学校	163名	11		矢部中学校	139名			
8		石嶺中学校	80名			コザ中学校	250名			
9	17	益城中学校	153名	12		至誠中学校	56名			

(高等学校) 12,920名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	1	山陽女子高等学校	20	名	10	29	池田高等学校	113	名
4	4	国立音楽大学附属音楽高等学校	81	名	10	行徳高等学校	167	名	
5	13	那覇工業高等学校	20	名	30	七里ヶ浜高等学校	309	名	
21		昭和薬科大学附属高等学校	45	名	31	村岡高等学校	99	名	
23		陽明高等学校	25	名	31	大妻嵐山高等学校	268	名	
6	4	開邦高等学校	63	名	5	流経大柏高等学校	280	名	
		国立音楽大学附属音楽高等学校	151	名	7	桶川西高等学校	234	名	
		知念高等学校	387	名	11	藤沢工業高等学校	202	名	
5		陽明高等学校	20	名	19	野田北高等学校	303	名	
25		九州産業高等学校	150	名	21	安曇川高等学校	294	名	
26		桶川高等学校	40	名	25	豊岡実業高等学校	143	名	
27		桶川高等学校	117	名	26	八王子東高等学校	323	名	
28		九州産業高等学校	150	名	26	松戸高等学校	28	名	
1	1	九州産業高等学校	176	名	27	佐竹高等学校	195	名	
2		九州産業高等学校	149	名	12	石岡第二高等学校	248	名	
4		大冠高等学校	155	名	9	高遠高等学校	110	名	
8		大冠高等学校	157	名	10	名取高等学校	302	名	
9	10	陽明高等学校	54	名	11	白河旭高等学校	81	名	
		帝京安積高等学校	159	名	12	独協埼玉高等学校	171	名	
11		帝京安積高等学校	276	名	13	京都明徳高等学校	189	名	
26		川口高等学校	46	名		独協埼玉高等学校	201	名	
		泊高等学校	100	名	15	京都明徳高等学校	152	名	
10	1	鹿島高等学校	315	名	18	白石女子高等学校	315	名	
7		棚倉高等学校	159	名	19	藏王高等学校	73	名	
		鶴見工業高等学校	39	名	13	沖縄女子短大附属高等学校	31	名	
16		大宮北高等学校	323	名	14	南部農林高等学校	180	名	
		下関高等学校	237	名	16	沖縄女子短大附属高等学校	28	名	
21		六甲高等学校	24	名	23	芥川高等学校	311	名	
23		ノートルダム清心高等学校	194	名	30	吉田高等学校	67	名	
26		池田高等学校	198	名	31	生田東高等学校	24	名	

(大学・専門学校) 394名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
5	22	琉球大学	32	名	9	20	沖縄県立芸術大学	26	名
8	5	琉球大学	25	名	27		メリーランド大学	20	名
9	4	京都精華大学	26	名	10	17	ヨノック大学	21	名
10		学習院女子短期大学	38	名	8		メリーランド大学	20	名
11		追手門学院大学	31	名	11	26	琉球大学	56	名
12	24	九州造形短期大学				12	24	24名	
						1	18	沖縄国際大学	
						3	27	27名	
								神戸山手女子短期大学	

(特殊学校・その他) 1,782名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	1	岡山市沖縄少年少女の翼	43	名	5	21	たつのこ保育園	25	名
25		当蔵保育所	26	名	22	森川養護学校	3	名	
26		のびのび学園	41	名	23	石嶺幼稚園	97	名	
30		曙幼稚園	18	名	27	YMCAようちえん	54	名	
		育伸幼稚園	9	名	28	城西幼稚園	73	名	
5	1	守禮之邦保育園・幼稚園	30	名	29	みやぎ原幼稚園	7	名	
		ガジマル保育園	8	名		かねしま乳児園	8	名	
		こざくら保育園	12	名	30	友愛保育園	10	名	
2		つばかわ保育園	13	名	6	鏡が丘養護学校	32	名	
		広栄保育園	8	名	4	沖縄ろう学校	3	名	
		こざくら保育園	20	名	5	真栄原カトリック幼稚園	121	名	
7		安謝児童クラブ	13	名		城下保育園	26	名	
8		根差部共同保育	10	名		森川養護学校	8	名	
10		平良川学童	27	名		いしだ丘保育園	17	名	
13		つばみ保育園	23	名	6	チルドウェントウスクールハウス	7	名	
		大空保育園	24	名		柿の実保育園	8	名	
14		美咲養護学校	6	名		パンダ保育園	23	名	
15		開成幼稚園	22	名		森川養護学校	8	名	
		曙児童クラブ	18	名		真栄原カトリック幼稚園	107	名	
		曙児童クラブ	25	名	7	なかも学童クラブ	29	名	
		久茂地児童館	18	名	25	岡山市沖縄少年少女の翼	21	名	
		大地保育園	19	名	29	長田保育園	17	名	
16		美咲養護学校	9	名	30	宇栄原児童クラブ	15	名	
20		おおたけ保育園	30	名	8	大竹市中学生交歓交流団	20	名	
21		さんご保育園	10	名	5	津嘉山学童センター	49	名	

III 調査研究等の活動

1 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集、資料の整理保管、資料の展示、教育普及活動という5つの大きな柱によって構成されている。これらの各機能は互いに相関性をもつて存在するものである。

当館における従来の調査研究には、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を定めて調査研究に取り組む共同研究と、学芸員各自が専門分野について調査研究を目的とする個別研究がある。

共同研究は、各離島における総合調査を実施しており、自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各専門分野にわたっている。これまでに久米島総合調査（平成5年度・6年度に実施）を皮切りに、波照間総合調査（平成8年度・9年度）と実施し報告書を刊行している。本年度からは西表島総合調査（平成10年度・11年度・12年度）を実施する予定である。

個別研究については、各学芸員が専門分野別に研究を進めているもので、平成9年度も多様な研究が行われた。研究成果については、平成9年度に刊行した『沖縄県立博物館紀要』第24号に研究論文・調査報告という形で掲載している。

また、『紀要』への掲載の他に専門的な学会誌や研究機関誌への発表も行っている。

以下、各学芸員が平成9年度に行った調査・研究活動の状況を1調査研究、2講演、3著作論文別に報告する。

2 波照間島総合調査

担当：与那城 義春

調査概要

1. 博物館総合調査事業の趣旨

本県は多数の島々から成り立ち、各島毎に豊かな自然と歴史があり、それぞれに特徴ある文化、社会が形成されています。

これまでの県内離島調査は主に野生生物相の調査、遺跡の分布調査、民俗・集落及び独特の伝統行事等について報告されている。しかし、島々の自然・文化・社会に関する基礎的なデータは必ずしも十分であるとはいえない状況である。

近年、県内でも沖縄本島の各種開発は特に活発化しているため、その影響は地形及び環境等も激変の様相を呈しているようである。更に地域住民の生活や伝統行事の形態など文化的側面までも改変されてしまいそうな状況である。

同様な地域開発が県内の各離島で実施されるならば、島々の自然・文化・社会等に関する貴重な資料も含めて消失するものと思われます。

本事業は各離島の自然・文化・社会等について各方面から調査・研究することによってその成果をまとめて報告し、更に当館の展示等に活用して島々の実態を多くの県民に正しく理解させるとともに保護保存の促進及び各地域の発展を目指している。また、各離島の自然・文化・社会等に関する理解を深め、島々における独自性の維持・継承

の促進を目的としている。

本調査は当館の館長をはじめ、学芸員及び館外の専門家にも依頼して総勢20人前後の体制で実施する。調査期間は各離島単位で通常2年間を予定しているが、島の規模に応じて3年間継続することもある。

2. 波照間島総合調査の選定理由

波照間島は我が国の最南端に位置しており、島の貴重な自然、歴史や文化が未だ残されている。

これまでの波照間島調査は人類学や民俗、芸能、考古、言語、伝行事及び野生生物相や地質・地形、歴史等に関する報告されている。

しかし、同島の自然・文化・社会等に関する基礎的なデータはまだ十分でないようと思われます。しかも県内各地で活発化している各種開発は楽観できない状況であり、総合的な調査の必要性と緊急性を痛感させられています。従って、県内離島の自然・文化・社会に関する総合調査は前回の久米島に次いで、貴重な資料収集を目的に波照間島を選定した。

3. 総合調査組織

調査は沖縄県立博物館の當間一郎館長および学芸員等が中心となり、他に館外の研究者（委嘱調査員）6人を加えて波照間島の総合調査団を構成する。

4. 調査方法

調査は自然・考古・歴史・民俗・美術工芸の5分野であり、各分野の調査方法、地域、対象は当然のことながら異なっている。従って、現地調査は各分野別に具体的な調査方法を各担当者で検討し、各々のスケジュール等を調整した上で実施する。なお、調査協力依頼書は現地の教育委員会や文化協会等に博物館の事務局（担当：与那城）で必要に応じて事前に発送する。

現地調査の前に各分野別の調査検討会を持ち、調査終了後はその報告会を設定する。

5. 調査員

調査員は博物館職員のほか、各分野毎の委嘱調査員によって構成される。

1997(平成9)年度から1998(平成10)年度までの委嘱調査員は下記の通りである。

自 然：委嘱調査員 豊見山 元（県立北中城高等学校教諭）

〃 比 嘉 ヨシ子（元県環境衛生研究所研究員）

〃 山 田 真 弓（県立向陽高等学校教諭）

歴 史：委嘱調査員 通 事 孝 作（竹富町役場町史編集室主事）

考 古：委嘱調査員 土 肥 直 美（琉球大学医学部助教授）

民 俗：委嘱調査員 加治工 真 市（県立芸術大学教授）

美術工芸：博物館職員のみ

6. 調査の成果

(1) 調査の成果は1997(平成9)年度末に報告書を刊行する。

(2) 1998(平成10)年度には波照間島総合調査の成果に基づいた特別展を開催する予定である。

* 波照間島総合調査（1年目）

最終年度（1996年4月～1997年3月）のスケジュール

年 度	月	活 動 内 容
1996 (平成8年)	4月	
	5	
	6	委嘱状交付
	7	第一回調査検討会
	8	
	9	第1次調査
	10	第2回調査検討会
	11	第2次調査
	12	
	1	第3回調査検討会
	2	第2次調査
	3	全体中間報告会
1997年		

波照間島総合調査の中間報告会

同総合調査の中間報告会は各分野毎に博物館職員および委嘱調査員によって実施した
(実施日：平成9年2月27日 14:00～17:00)。

なお、委嘱調査員の氏名とテーマは下記の通りである。

氏 名	テーマ
自然：比嘉ヨシ子 氏	波照間島の土壤動物
歴史：通事孝作 主事	八重山群雄割拠時代の波照間島
考古：土肥直美 琉大助教授	骨格形態による人類史研究
民族：加治工真市 県芸大教授	波照間方言の研究

その後、當間一郎館長のほかに博物館職員も各分野毎に調査概要等を報告した。
また、波照間島総合調査に関する質疑、情報交換等を実施し、中間報告会の全日程を終了した。

波照間島総合調査・最終年度(1997年4月～1998年3月)のスケジュール

年 度	月	活 動 内 容
1997 (平成9年)	4月	
	5	委嘱状交付
	6	第一回調査検討会
	7	第4次調査
	8	第2回調査検討会
	9	第5次調査
	10	第3回調査検討会 確認補足調査 全体報告会及び原稿執筆検討会 原稿作成
	11	
	12	
	1	入稿
	2	
	3	報告書（「論文編」・「資料編」）完成
1998年		

3 調査研究

當眞 嗣一（主幹兼学芸課長）

○波照間島の考古学的調査

期　　日：1997年7月1日～4日

○南部のグスク調査

期　　日：1997年9月11日

○中国陶磁器窯跡調査

期　　日：1997年9月27日～10月5日

依頼機関：(財)沖縄県文化振興会公文
書館

○長崎大学での沖縄遺跡出土の人骨調査

期　　日：1997年11月5日～7日

依頼機関：(財)沖縄県文化振興会公文
書館

○久米島宇江城跡の調査

期　　日：1998年2月16日～17日

依頼機関：仲里村教育委員会

○飛鳥藤原宮跡発掘調査部で石造遺構の
調査

期　　日：1998年3月16日～3月18日

依頼機関：奈良国立文化財研究所

○久米島宇江城跡の調査

期　　日：1998年3月23日

依頼機関：糸満市教育委員会

与那城 義春（充指導主事）

○(財)沖縄県文化振興会委託調査「硫黄
島総合学術調査」

期　　日：1997年5月7日～11日

依頼機関：(株)環境アセスメントセン
ター

○沖縄総合事務局北部ダム事務所委託調
査「ノグチゲラ調査・検討会」委員

期　　日：1997年6月13日～

1998年3月31日

依頼機関：(社)沖縄建設弘済会

○国指定天然記念物・東村慶佐次ヒルギ
林の動物調査

期　　日：1997年8月28日～

1998年3月31日

依頼機関：東村教育委員会

○沖縄県自然保護課委託調査「沖縄県版

レッドデータブック調査・検討」委員

期　　日：1997年11月13日～

1998年3月31日

依頼機関：(株)環境アセスメントセン
ター

○沖縄県東村役場企画課委託調査「東村
慶佐次ヒルギ林の鳥類調査」

期　　日：1997年12月4日～5日

依頼機関：(財)沖縄県環境科学セン
ター

神谷 厚昭（指導主事）

○平成8年度沖縄県地質鉱物緊急実態調
査（沖縄本島・周辺離島）

期　　日：1997年4月1日～
1998年3月31日

依頼機関：沖縄県教育委員会

○硫黄島自然調査

期　　日：1997年5月7～12日

依頼機関：沖縄県

○波照間島総合調査

期　　日：1997年6月28日～30日、
8月9日～8月11日、
10月22日～24日

○南風原町史自然編集

期　　日：1997年4月1日～
1998年3月31日

依頼機関：南風原町

○岩石・化石資料調査（久米島）

期　　日：1998年1月21日～22日

○岩石・化石資料調査（北大東島）

期　　日：1998年2月18日～20日

○岩石・化石資料調査（粟国島）

期　　日：1998年3月24日～25日

○岩石・化石資料調査（久米島）

期　　日：1998年3月30日～31日

豊原 建二（充指導主事）

○名護市動植物総合調査

期　　日：1997年4月1日～

1998年3月31日

依頼機関：名護市教育委員会
調　　査　地：名護市一円

- 名護市文化財保護調査
 期　　日：1997年4月1日～
 　　　　1998年3月31日
 依頼機関：名護市教育委員会
 調　　査　地：名護市一円
- 環境庁委託生物多様性地域調査
 期　　日：1997年4月1日～
 　　　　1998年3月31日
 依頼機関：（財）自然環境研究センター
 場　　所：沖縄島（やんばる地区）
- 沖縄総合事務局北部ダム事務所
 「ノグチゲラ調査・検討会」委員
 期　　日：1997年6月13日～
 　　　　1998年3月31日
 依頼機関：(社)沖縄建設弘済会
- カシムリワシ個体数調査
 期　　日：1997年12月1日～
 　　　　1998年9月30日
 依頼機関：日本野鳥の会八重山支部
 場　　所：石垣島・西表島
- 津波古 聰（充指導主事）**
- 旧円覚寺美術工芸関係資料調査
 期　　日：1998年1月7日～9日
 調　　査　地：早稲田大学、神奈川県鎌倉市
 依頼機関：沖縄県教育庁文化課
- 旧円覚寺美術工芸関係資料調査
 期　　日：1998年3月2日～4日
 調　　査　地：京都市
 依頼機関：沖縄県教育庁文化課
- 旧円覚寺美術工芸関係資料調査
 期　　日：1998年3月12日～13日
 調　　査　地：沖縄県立芸術大学
 依頼機関：沖縄県教育庁文化課
- 與那嶺 一子（主任学芸員）**
- 波照間島総合調査
 期　　日：1997年9月17日～18日
- 萩尾 俊章（学芸員）**
- 波照間島総合調査
- 期　　日：1997年7月30日～8月1日、
 　　　　9月24日～26日
- 「久米島における東アジア諸文化の媒介事象に関する研究」
 期　　日：1997年12月22日～27日
 中国・福建省調査
 事業内容：文部省科学研究費補助金／
 　　　　　基盤（A）・研究協力者
 成　　果：1998年度に報告書としてまとめる
- 旧円覚寺美術工芸関係資料調査
 期　　日：1998年1月7日～9日
 調　　査　地：早稲田大学、神奈川県鎌倉市
 依頼機関：沖縄県教育庁文化課
- 旧円覚寺美術工芸関係資料調査
 期　　日：1998年3月12日～13日
 調　　査　地：沖縄県立芸術大学
 依頼機関：沖縄県教育庁文化課
- 前田 真之（教育普及課長）**
- 波照間総合調査：波照間の歴史に関する聞き取り調査
 期　　日：1997年9月2日～4日
 依頼機関：沖縄県立博物館
 成　　果：1997年度に報告書にまとめること
- 教育普及書作成のための調査
 期　　日：1998年2月3日～5日
 調　　査　地：石垣市
 成　　果：1997年度に教育普及書を作成する
- 瑞慶山 昇（充指導主事）**
- 教育普及書作成のための調査
 期　　日：1998年2月3日～6日
 成　　果：1997年度に教育普及書を作成する
- 波照間島総合調査
 期　　日：1997年5月7日～8日
 　　　　1998年1月26日～28日
 成　　果：1997年度の報告書にまとめること

仲間 留美（学芸員）
○波照間島総合調査
期　　日：1997年7月1日～3日

4 講演等

當眞 嗣一

- 「郷土の歴史」
期　　日：1997年5月20日
依頼機関：沖縄県自治研修所
- 「首里城の歴史」
期　　日：1997年6月25日
依頼機関：県立糸満青年の家
- 「郷土の歴史」
期　　日：1997年9月4日
依頼機関：沖縄県自治研修所
- 「琉球の歴史とロマン」
期　　日：1997年9月20日
依頼機関：宜野湾市教育委員会
- 「考古学から見た城」
期　　日：1997年9月14日
依頼機関：文殊の会
- 「中城城の歴史」
期　　日：1997年10月9日
依頼機関：中城城跡共同管理協議会
- 「琉球の歴史とグスク」
期　　日：1997年10月10日
依頼機関：宜野湾市中央公民館
- 「琉球の歴史」
期　　日：1997年10月31日
依頼機関：宜野湾市教育委員会
- 「琉球の歴史と文化(1)」
期　　日：1997年11月4日
依頼機関：島尻教育事務所
- 「南島考古学への誘い」
期　　日：1997年11月22日
依頼機関：琉球大学生生涯学習教育研究センター
- 「琉球の歴史と文化(2)」
期　　日：1997年11月27日
依頼機関：島尻教育事務所

○「琉球の歴史Ⅱ（考古学）」
期　　日：1997年12月3日
依頼機関：県立糸満青年の家

与那城 義春

- 沖縄の野鳥について
期　　日：1997年9月9日
依頼機関：浦添市てだこ学園大学院
- 沖縄の自然と野鳥
期　　日：1997年12月7日
依頼機関：沖縄県高等学校物理教育研究会
- 野鳥観察会（沖縄市）
期　　日：1997年12月7日
依頼機関：浦添市ハーモニーセンター
- 野鳥観察会（沖縄市）
期　　日：1997年12月14日
依頼機関：西原町教育委員会

神谷 厚昭

- 「地学教材について」
期　　日：1997年5月26日
備　　考：那覇支部教研集会地学分科会
- 文化講座「地層観察会」
期　　日：1997年7月19日
依頼機関：沖縄県立博物館
- 渡名喜島地質巡検
期　　日：1997年7月12日～13日
依頼機関：沖縄県立博物館友の会
- 中学校理科教育研修講座
期　　間：1997年8月13日
依頼機関：沖縄県立教育センター
- 那覇地区中学校理科夏期研修
期　　日：1997年7月30日、
　　　　8月25日～26日
依頼機関：那覇地区中学校理科研究会
- 大宜味村自然体験学習（大保川）
期　　日：1997年9月23日
依頼機関：大宜味村教育委員会
- 岩石の博物館石垣島地質探検
期　　日：1997年10月25日
依頼機関：石垣少年自然の家

- 与那国地質巡検
期　　日：1997年12月26日～28日
依頼機関：沖縄県高等学校地学教育研究会
- 公民館成人講座「琉球列島の生い立ち」
期　　日：1998年1月20日～3月1日
(毎週1回)
依頼機関：那覇市小禄南公民館
- 前原遺跡の岩石製品の石質鑑定
期　　日：1998年3月27日
依頼機関：宜野座村立博物館
- 探鳥会講師
期　　日：1998年2月14日・15日
依頼機関：粟国村教育委員会
場　　所：粟国島
- 野鳥観察会講師
期　　日：1998年3月8日
依頼機関：南大東村教育委員会
場　　所：南大東島

嵩原 建二

- 山の観察会講師
期　　日：1997年8月9日
依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課
場　　所：那覇市末吉公園
- 平成9年度少年教室探鳥会講師
期　　日：1997年9月13日、14日
依頼機関：那覇市立久茂地公民館
場　　所：琉球大学与那演習林
- 平成9年度家庭教育学級「おもしろ塾」
探鳥会講師
期　　日：1997年10月25日
依頼機関：那覇市小禄南公民館
場　　所：漫湖公園
- 沖縄県長寿学園講師
期　　日：1997年12月16日
1998年1月6日、1月13日、
1月10日
依頼機関：沖縄県生涯学習課
場　　所：駐労センター
- 発見いっぱい野鳥教室講師
期　　日：1998年1月24日
依頼機関：知念村教育委員会
場　　所：漫湖公園
- 環境教育野鳥観察会講師
期　　日：1998年1月29日
依頼機関：沖縄県自然保護課
場　　所：具志川村立大岳小学校
- 第20回沖縄県青少年科学作品展審査員
期　　日：1997年12月19日
- 講演「沖縄の歴史と文化」
期　　日：1997年4月3日・4日
依頼機関：沖縄県自治研修所
(新採用県職員研修)
- 講演「沖縄の歴史と文化」
期　　日：1997年7月3日
依頼機関：沖縄県自治研修所
(第17回現業職員研修)
- 講演「絵図の見方、楽しみ方」
期　　日：1997年8月6日
備　　考：沖縄県立博物館ボランティア養成講座
- 講演「沖縄の歴史と文化」
期　　日：1997年10月16日
依頼機関：和光進和会
- 講演「西南中国の酒と泡盛」
期　　日：1997年1月17日
備　　考：沖縄県立博物館文化講座
- 展示室解説会「歴史展示室」
期　　日：1998年2月28日
依頼機関：沖縄県立博物館友の会
- 講演「沖縄の歴史と文化」
期　　日：1998年3月20日
依頼機関：大阪府立高等学校同和教育研究会
備　　考：高校生セミナー

太田 健一

- 「民俗室の展示解説」
期　　日：1997年7月9日

依頼機関：沖縄県立博物館	備 考：沖縄県立博物館ボランティア養成講座
備 考：教育ボランティア養成講座	
前田 真之	仲底 善章（指導主事）
○「博物館活動をとおして見た社会教育活動」	○「博物館ってどんなところ？」
期 日：1997年5月21日	期 日：1997年7月23日
依頼機関：国頭地区社会教育委員連絡協議会	依頼機関：沖縄県立博物館
○「博物館の現状と課題」	備 考：沖縄県立博物館ボランティア養成講座
期 日：1997年11月26日	
依頼機関：琉球大学教育学部	
○「博物館ボランティアの役割」	
期 日：1997年9月24日	
依頼機関：沖縄県立博物館	

5 著作論文

當間 一郎

- 『沖縄県史料』前近代 11 芸能（全写本の翻刻・解題で1冊を担当） 1998年2月27日
- 「組踊『雪払』三種の比較考察」『沖縄藝能史研究会会報』第236号 1997年5月15日
- 「組踊『北山崩』の上演について」『沖縄藝能史研究会会報』第240号
1997年10月15日
- 「組踊『忠孝夫婦忠義』について」『沖縄藝能史研究会会報』第245号 1998年3月15日
- 「史料紹介 組踊『忠孝夫婦忠義』について」『沖縄県立博物館紀要』第24号
1998年3月31日
- 「波照間島の芸能」『波照間島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－』
1998年3月31日

當眞 嗣一

- 「考古学からみた沖縄諸島先史時代の交流」『歴史と地理』山川出版社 1997年6月
- 「戦跡考古学」「Mook 考古学がわかる」朝日新聞社 1997年6月
- 「沖縄のロゼッタストーン」「海底のオーパーツ」二見書房 1997年7月
- 「南島考古学への誘い」「沖縄地区大学放送公開講座 南島考古学への誘い」1997年8月
- 「考古学遺物よりみたグスク時代前後の交流」『歴史と地理』山川出版社 1997年9月
- 「沖縄の米軍基地と文化財問題」「考古学研究』第44巻第2号 考古学研究会
1997年9月
- 「波照間島の考古学」『波照間島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－』 1998年3月31日
- 「沖縄南部旧喜屋武間切のグスク群について（一）」『沖縄県立博物館紀要』第24号
1998年3月31日

与那城 義春

- 「大里村真境名丘陵の動物」『大里村真境名丘陵の動植物調査報告書』 大里村教育委員会 1997年5月
- 「硫黃鳥島総合学術調査報告－鳥類－」『硫黃鳥島総合学術調査中間報告書』 (財)沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室 1998年2月
- 「南風原町の鳥類」『南風原町史自然編』 南風原町史編集室 1998年3月
- 「波照間島の鳥類調査」『波照間島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－』 沖縄県立博物館 1998年3月31日
- 「キジバトの繁殖」『沖縄県立博物館紀要』第24号 1998年3月31日

神谷 厚昭

- 「沖縄県南風原町の地質」『南風原町史 自然編』 1998年3月
- 「南風原町黄金森の自然－地質編」『南風原町史 自然編』 1998年3月
- 「硫黃鳥島総合学術調査中間報告」 沖縄文化振興会公文書館管理部資料編集室 1998年2月
- 「波照間島の地形と地質」『波照間島総合調査報告－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－』 沖縄県立博物館 1998年3月31日

嵩原 建二

- 『沖縄の帰化動物』(共著) 沖縄出版 1997年12月
- 「ヤンバルの鳥類」 千葉県立中央博物館特別展図録『照葉樹林のいきものたち』 千葉県立中央博物館 1997年7月
- 沖縄県立博物館 平成9年度教育普及書『沖縄県の探鳥地ガイド』 沖縄県立博物館 1998年3月31日
- (共著)「波照間島で記録された野鳥とその方言名」『波照間島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－』 沖縄県立博物館 1998年3月31日

津波古 聰

- 瑞慶山昇 共著「資料紹介・波照間の古墓出土の陶磁器」『波照間島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－』 沖縄県立博物館 1998年3月31日

與那嶺 一子

- 「昭和初期における波照間島の織物（聞き書き）」『波照間島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－』 沖縄県立博物館 1998年3月31日

萩尾 俊章

- 「首里と那覇の都市論」『歴史と地理』第508号 山川出版社 1998年12月
- 「波照間島の日撰暦クリヨンとその周辺」『波照間島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－』 沖縄県立博物館 1998年3月31日
- 「時双紙の記載形式と内容をめぐって」『沖縄県立博物館紀要』第24号 1998年3月31日
- 外間正幸共著「沖縄県立博物館草創期の文化財収集とその背景」『沖縄県立博物館紀要』第24号 1998年3月31日

前田 真之

- 「癩予防法と沖縄」『沖縄県立博物館紀要』第24号 1998年3月31日
- 「波照間と皇民化」『波照間総合調査報告書—自然・歴史・民俗・考古・美術工芸—』沖縄県立博物館 1998年3月31日
- 「信教の自由—神々をめぐるたたかい」水島朝穂・仲底博編『オキナワと憲法』法律文化社 1998年
- 「天皇—天皇を知らない辺境の民」水島朝穂・仲底博編『オキナワと憲法』法律文化社 1998年
- 「人にやさしい博物館づくりをめざして—沖縄県立博物館のこれから」『神奈川県立生命の星・地球博物館創立3周年記念論集』 1998年

瑞慶山 昇

- 津波古 聰 共著「資料紹介・波照間の古墓出土の陶磁器」『波照間総合調査報告書—自然・歴史・民俗・考古・美術工芸—』 沖縄県立博物館 1998年3月31日

仲底 善章

- 「波照間島の神行事について～プリン(豊年祭)を中心に～」『沖縄県立博物館紀要』第24号 1998年3月31日
- 「波照間島の神行事について～ツクリニゲー(作物の豊作願い)とアミニゲ(雨ごい)の形態を中心に」『波照間島総合調査報告書—自然・歴史・民俗・考古・美術工芸—』 沖縄県立博物館 1998年3月31日

仲間 留美

- 「毛原第一墓・庸原第一墓の調査」『波照間島総合調査報告書—自然・歴史・民俗・考古・美術工芸—』 沖縄県立博物館 1998年3月31日
- 喜久川智子 共著「より良い博物館活動をめざして～アンケート調査より～」『沖縄県立博物館紀要』第24号 1998年3月31日

6 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示、及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」(博物館法 第4条4)こととなっていて、そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知学問の専門性が要求されている。そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員研修を受けている。

平成9年度は、文化庁文化財保護部美術工芸課が主催する指定文化財(美術工芸品)展示取扱講習会への参加や文部省・国立教育会館社会教育研修所が主催する学芸員資格取得の為の博物館職員講習の受講、財団法人沖縄県人材育成財団が主催する国内外への研究員の派遣に応募し、海外博物館における新技術の習得を目的として研究活動に参加した。

(1) 平成 8・9 年度博物館職員講習 前田 真之

平成 8・9 年度に行われた博物館職員講習は、博物館等に勤務する職員を対象に学芸員の資格取得を目的として行われている。期間は 2 年にまたがり、平成 8 年度は 6 月 2 日(日)～6 月 25 日(火)まで、平成 9 年度は 6 月 2 日(月)～6 月 26 日(木)までの日程で行われた。研修の内容は、以下のとおりであった。

1. 平成 8 年度博物館職員講習の研修内容

- 6 月 3 日(月) オリエンテーション／今野雅裕「社会教育概論」
4 日(火) 大堀哲「博物館概論」／伊藤俊夫「社会教育概論」
5 日(水) 鈴木真理「社会教育概論」／佐伯信男「社会教育概論」
6 日(木) 萩原元昭「社会教育概論」／坂本弘直「特別講演」
7 日(金) 加藤有次「博物館概論」／大堀哲「博物館概論」
10 日(月) 社会教育概論テスト／研究討議
11 日(火) 「博物館概論：博物館活動の実際」の学習のため「房総の村」博物館視察
12 日(水) 杉山晋作「博物館学」
13 日(木) 平川南「博物館学」
14 日(金) 大島暁雄「博物館学」
17 日(月) 白石和己「博物館学」／市川政憲「博物館学」
18 日(火) 本江邦夫「博物館学」
19 日(水) 博物館学テスト
20 日(木) 星野絃「文化史」
21 日(金) 渡邊明義「文化史」
24 日(月) 田邊幹之助「文化史」
25 日(火) 次年度オリエンテーション／閉講式

2. 平成 8 年度博物館職員講習の結果

- ①日本の博物館史の中に位置付けて、現在の博物館活動を考えられるようになった。
- ②教育普及活動の事業を生涯学習の視点から具体的に考えていくことの必要性を感じた。
- ③博物館における学際的な研究の必要性を「漆文書」発掘に関する授業から学んだ。
- ④美術史研究における自然科学の果たす役割について、顔料の科学的分析から学んだ。
- ⑤美術作品が博物館施設の環境を決定づけることについて、中世美術と近代美術を比較しながら学んだ。

3. 平成 9 年度博物館職員講習の研修内容

- 6 月 2 日(月) オリエンテーション／新井郁男「教育学概論」
3 日(火) 清水一彦「教育概論」／桑原俊明「教育学概論」
4 日(水) 野島正也「教育学概論」
5 日(木) 新井重三「博物館学概論」
6 日(金) 奥岡茂雄「博物館学概論」
9 日(月) 大堀哲「博物館概論」
10 日(火) 古澤立巳「博物館学概論」／高安礼士「博物館学概論」
11 日(水) 德増有治「博物館学」／宇佐美昇三「視聴覚メディア論」

- 12日 (木) 坂本朝治・椿坂信弥「視聴覚メディア論」
 13日 (金) 椿坂信弥「視聴覚メディア論」
 16日 (月) 里美親幸「視聴覚メディア論」／宮田昭男「視聴覚メディア論」
 17日 (火) テスト「博物館経営論」「視聴覚メディア論」「教育学概論」「博物館学概論」
 18日 (水) 高橋信裕「博物館情報論」
 19日 (木) 高安礼士「博物館情報論」
 20日 (金) 高橋信裕「博物館情報論」
 23日 (月) 新谷尚紀「民俗学」／橋本裕之「民族学」
 24日 (火) 石田武久「民俗学」／糠谷隆「民俗学」
 25日 (水) 青木俊也「民俗学」／特別講義「博物館学芸員に期待すること」
 26日 (木) 認定説明会／閉講式

4. 平成9年度博物館職員講習の結果

- ①博物館評価による館の活動改善が来館者の意向をもふまえて実施され、会期中でも展示の改善を行う館が出てきている。
- ②新しい博物館の潮流の一つであるエコ・ミュージアムの理念とその導入について千葉県富安町などを例に学んだ。
- ③ミュージアム ワークシートの作成について、観察や推理・想像に重点を置いた実践事例（アメリカコロラド砂漠に生きる生物たちの展示・動物の足跡）からノルマ達成型にならない方法を学んだ。
- ④ミュージアムマネジメントでは、事業評価、活動評価を生かした次年度の事業展開の話が行われた。
- ⑤コミュニケーションにおけるディスプレーモデル理論の果たす役割と視聴覚の持つ補充的な役割について学んだ。
- ⑥博物館情報の多様化と分極化：電子博物館のように博物館資料なしでもバーチャル方式で運営できるという方向とあくまで物を出発点とする方向とに分極化の傾向が生じてきている。（後者は国立民族学博物館に代表される。）

(2) 第11回指定文化財（美術工芸品）展示取扱講習会 津波古 聰

期間：平成8年～平成9年（各5日間）

場所：京都国立博物館

主催：文化庁

現在、全国に数百の博物館、美術館、資料館があり、国立から私立まで、その規模も大小さまざまである。内容も自然・歴史・文化を扱う総合的なものからひとつの分野にテーマを絞ったものまであり、各館ともそれぞれ独自の活動を行っている。文化庁では、「公私立の博物館、美術館、資料館において有形文化財（美術工芸品）を取り扱う学芸担当者に対し、文化財の公開、保存、管理について必要な専門的知識と技能の研修を行い、もってその資質の向上を図ること」を目的に全国の博物館、美術館、資料館の学芸員を対象に、2年継続（各年5日間）の講習会を開催している。

11回を数えるこの講習会は、全国を東日本と西日本に分け、東京国立博物館と京都国立博物館において開催している。沖縄県は西日本となり、京都国立博物館において、開催さ

れた。西日本は、18の府及び県から28名が参加し、平成8年度は、11月25日（月）から11月29日（金）、平成9年度は11月17日（月）から11月21日（金）の間に行われた。一講座90分で、一日5講座が組まれた。

講習会の名称を特徴づけるように、文化財の保護、文化財の調書作成と取り扱い、文化財の保存と修理、博物館の運営などで、いわゆる有形文化財の法的位置づけからその収集・保存、さらに活用まで含む講座の内容であった。年度別に見ると平成8年度は、文化財保護政策、指定文化財の現状の講座のあと、陶磁器や刀剣等の工芸、絵画等の美術、典籍・古文書、考古資料など各分野ごとの資料の取り扱いと調書作成の講義があった。その他、写真撮影や梱包の時、現実に起こったことの説明とそれに対応する解決方法等が示された。平成9年度は絵画、彫刻、工芸、書跡、考古歴史資料の修理に関するところに始まり、環境の問題や文化財の劣化の問題の講義があった。博物館の運営として海外の美術館（シカゴ大学博物館を中心に）の紹介と博物館の展示に関するいろいろな問題点の講義があり、さらに7～8名づつの小グループに分かれ、先の講義の内容にそった討議が行われ、それぞれグループから報告がなされた。

この博物館運営の講義のなかで、大和文華館の林先生の「博物館運営の危機について」は興味深かった。内容は、日本の経済の動きと連動し、展示会やそれに関する図録等が年毎に豪華になっている。しかし、経済が下降気味にある現在、将来はたして、運営がうまくいく博物館・美術館がどのくらいあるのか。おそらく倒産する館も出てくることも考えられる。なにも倒産する館は、私立の小さな館のみならず公の館でも起こりうることではないかというものであった。また、琵琶湖文化館の土井先生は、書画の修理に使用する和紙の話を通じて、日本の伝統技術と博物館の資料の関わりなどがあった。

なお、この講習会も今回で一度終了し、次年度から内容を再検討し、さらに充実した講習会にしていきたいとの説明が文化庁からあった。

(3) 米国ハワイ州のビッシュップ博物館に派遣されて 太田 健一

私は、財団法人沖縄県人材育成財團の平成9年度国内・国外派遣研究員として、ビショップ博物館—ハワイ州立自然文化史博物館—に派遣された。期間は、平成9年12月7日から平成10年2月28日までの84日間である。その概略について報告する。

私の所属部署は、Museum Information Services 内の Cultural Resources & Collection Care (以下、CRCCと略す) である。CRCCは民族誌資料の収集と整理、保存、修理、管理を担当する。特に、CRCCの資料の保存方法に興味を持った。それは、Environmental Monitoring (環境監視) で、博物館資料の置かれている環境状態を定期的に記録し予防保存に務めていた。毎週木曜日に展示室や収蔵庫等の温度・湿度と害虫の有無を所定の用紙に記録して、異常があれば専門家の指示を仰ぐのである。温・湿度は、Hygrothermographs (自記温湿計) の記録紙を毎週取り替えて記録する。害虫の記録は、IPM (Integrated Pest Management) という方法をとっている。その方法は、いずれも商品名だが Yellow Sticky Trap と Spinsectを使って、害虫を捕らえ記録する。

博物館は、資料の収集、整理保管、調査研究、教育活動の4つの機能を持っているが、それを日本の私立や地方自治体設置の博物館等は、専門分野によっては1人でこなさなければならない場合が多い。これからすると、分業化が進んでいるビショップ博物館の勤務体制は、うらやましいかぎりである。

IV 展示活動

1 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集、資料の整理保管、教育活動という4つの大きな柱によって構成されている。展示活動については、学芸業務の所掌事務として学芸課がその任にあたり、常設展を基本にして特別展を年に1回から2回、企画展を2回から3回程度実施しているところである。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の特別展示室と企画展示室が確保されていなため展示企画に合わせて第1展示室の歴史展示室や企画展示室を利用している。その度毎にそれぞれの展示物を撤収し展示スペースを確保している状況である。そのため「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できない等、来館者からの苦情を受けることもある。今後、特別展示室や企画展示室を設置していくことが、急務の課題となっている。

平成9年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示を中心に、特別展として「アルゼンチンの大恐竜展」、企画展として「新収蔵品展」、史跡首里城跡「京の内」の出土品展を開催した。

以下、平成9年度の展示活動について具体的に述べる。

2 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候の中にある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域として我が国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って海洋国家として興隆したという歴史的経緯を有している。

本博物館はこうした特色のある歴史と文化に関する資料を収集して整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。よくいわれることだが、沖縄の素顔はいくつかの特徴をもっているとされている。常設展示のメインテーマは「沖縄の歴史と文化」であるが、この常設展示を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されているのが展示内容の大きな特徴になっている。

展示室は、1階の第1室と第2室、2階の企画展示室と第3室、さらに中3階の第4室がある。第1室が考古・歴史で、ここでは琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。たとえば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる先史時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山先史時代の姿など。12世紀から13世紀になると按司と称する在地の小領主が出現しグスク時代が始まる。各グスクから出土した遺物が展示されている。ここまでが、考古資料の展示となっている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄本島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「大交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の進行をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでのユニークな沖縄歴史の様相が展

開されている。

第2室の自然史の展示は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれるアンモナイトやハロビア、あるいは絶滅して今では見られないリュウキユウシカやリュウキュウムカシキヨンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。左側から順に見て回ると、海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林に住む生きもの、源流の生きものと続く。また、沖縄のハブについても分類して展示してある。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については特設コーナーを設けて展示してある。

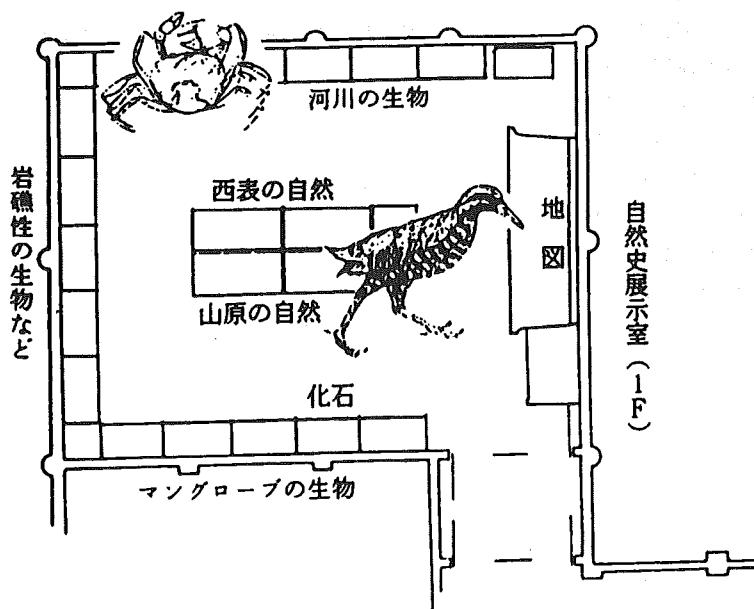
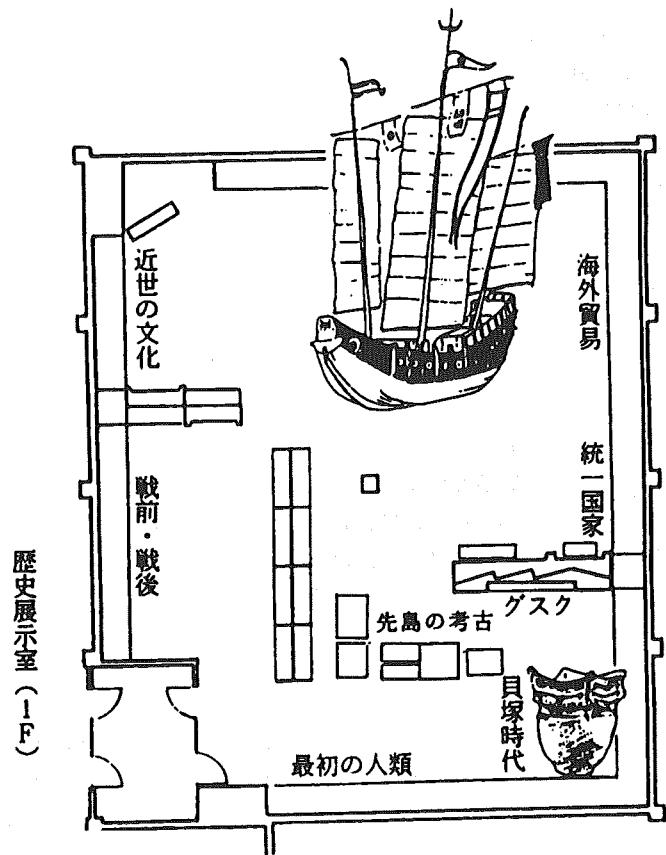
自然史室を出ると2階に至るスロープがあり、スロープの側壁には戦前から戦後にかけて撮影された貴重な沖縄の風景写真パネルが展示されており、写真を見ながら企画展示室に導かれる。この展示室には「大嶺コレクション」が展示されているが、その一角を利用して沖縄の染織のルーツともいわれる「東南アジアの染織」も展示してある。毎年、企画展示として行う新収蔵品展に使われている。

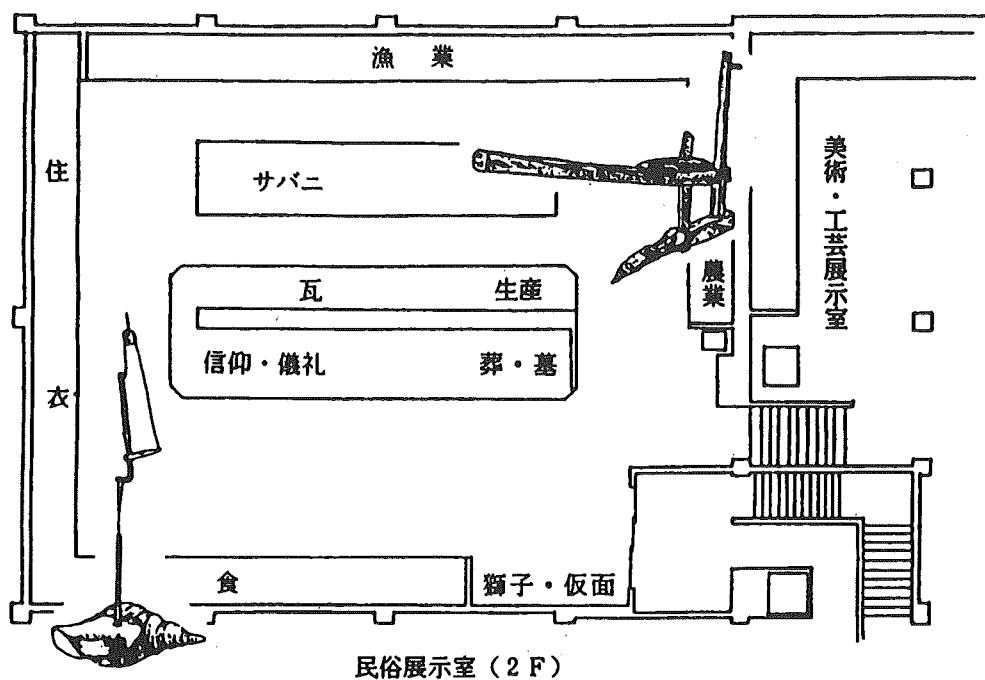
第3室美術工芸の展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交渉を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

第4室の民俗展示室には、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・芸能など、テーマごとに整理・分類して展示してある。また、庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知る資料も展示してある。なかでも、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などが紹介展示されているのもこの室の特徴の一つになっている。

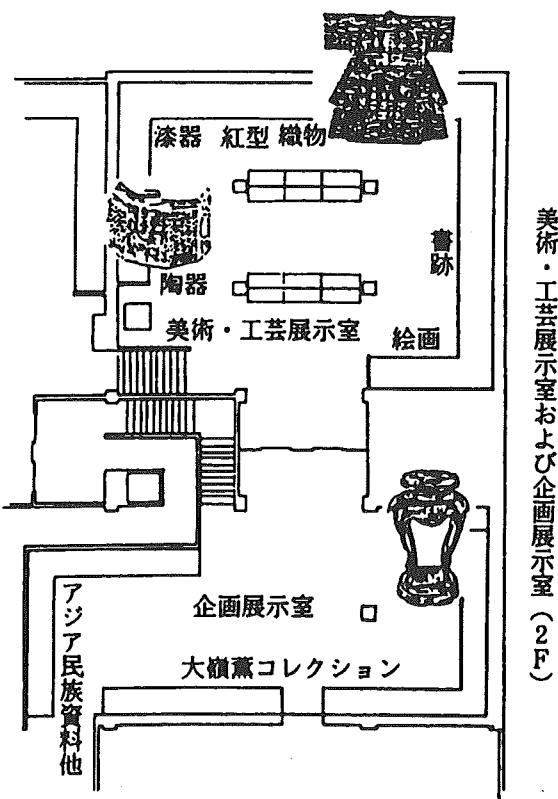
ところで、当博物館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特な工法で築かれた石牆は、前方の龍潭や首里城の眺めと調和して往時の古都をしのばせる歴史的景観を呈している。館のロビーに、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかった首里城正殿前の大龍柱の頭、万国津梁の鐘（首里城正殿鐘・重文）、「特高」・「特聲」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。

また、野外展示の一環にもなっている前庭に目を転じてみると、旧円覚寺楼鐘（重文）はじめ沖永良部から移築された高倉や、亜熱帯の樹木の下や芝生の中にひっそりと立っている石灯籠や石敢當とともに石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭などが展示されており、館を訪れる人々に館の内外から沖縄の歴史・文化を紹介している。





民俗展示室（2F）



美術・工芸展示室および企画展示室（2F）

3 特別展

復帰 25 周年記念

特別展「アルゼンチンの大恐竜展」

(担当: 神谷厚昭、与那城義春、端慶山昇)

会期: 1997年4月25日(金)~6月8日(日)

※みどりの日(4月29日)と憲法記念日(5月3日)は子供たちの見学の便宜を考慮して会館した。

会場: 沖縄県立博物館(ロビー、第1展示室)

【趣旨】

これまで国内では、旧ソビエトをはじめとする北半球の主な恐竜産出国の恐竜については、数多く展示会が開催され、多くの人の関心を得てきた。しかし、アルゼンチンをふくめ、南アメリカの恐竜に関する展示会はない。従って、今回、アルゼンチンをはじめ南アメリカに産出する約2億~6500万年前(ジュラ紀~白亜紀)の恐竜化石を中心とした古生物を紹介することは、一般県民にとって非常に有意義なことである。また、この特別展を通して、特異な地史をたどってきた南米大陸の生命の変遷を、広く県民に理解してもらえることも意義深い。それに、世界の生の自然に触れる機会の少ない本県の中高大学生にとって、島嶼的自然とは大きく違う大陸的自然に身近に接してもらい、自然の多様性を実感してもらうことは、環境教育の一助としてもたいへん有意義な展示会であると考えられる。また、本県出身の移民が多いアルゼンチンを中心とした南米の古生物を展示することを通して、両国間の親善にも役に立つと考えられる。以上のような趣旨に基づき、当展示会を設定した。

【開催形式】

主催は沖縄県立博物館でおこない、共催は琉球新報社、後援は那覇市教育委員会、沖縄県高等学校理科教育研究協議会、沖縄県理科教育協会、沖縄県小学校長会、沖縄県中学校長会、沖縄県高等學校長会、沖縄県PTA連合会、沖縄県子ども会育成連絡協議会、沖縄県アルゼンチン協会、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ株式会社、ラジオ沖縄株式会社、琉球朝日放送株式会社、FM沖縄株式会社があたり実施した。また、出品では群馬県立自然史博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、いわき市教育委員会、名鉄観光サービス株式会社、井上浩吉、長谷川善和、國府田良樹、高葉祐司氏等、多くの協力を得た。

【展示内容】

17年前、北半球のソビエト連邦の化石を中心とした「大恐竜展」が開催され、多くの県民から好評を得てきた。今回の特別展は、群馬県と茨城両県の協力を得て、沖縄県を含めての三県で開催したものである。内容は、アルゼンチンに産出する恐竜化石を中心とし、ブラジルなども含めた南半球型の動物化石の紹介・展示であった。

展示は4つのテーマに分かれ、「超大陸パンゲアの時代」、「恐竜の進化とゴンドワナ大陸」、「南アメリカにいた哺乳類」、「人類、南アメリカへ」の4コーナーに分けて構成した。

I 「超大陸パンゲアの時代」

恐竜が現れる遙か以前の先カンブリア時代の代表的な最古の化石のコレニアの展示をは

じめ、古いタイプの生物が繁栄した古生代の海の生物である三葉虫、腕足類、筆石を中心 に展示した。やがて、中生代になるとパンゲア大陸は分裂していく大間に分離し、それぞれに特徴のある生物たちが繁栄したが、その移動の証拠となるメソサウルスも展示 した。また、恐竜の祖先型の爬虫類とも言われる槽歯類や哺乳類型爬虫類など珍しい化石 類の展示もなされた。

II 「恐竜の進化とゴンドワナ大陸」

アルゼンチンをはじめ、南アメリカで栄えた恐竜の展示を中心とした。中でも、最古の 恐竜のエオラプトル、世界最大の恐竜の一つであるアルゼンチノサウルスの脊椎骨、世界 最大の肉食恐竜ギガノトサウルスの頭骨、頭に角を持ったカルノタウルス、背中に刺突起 を持った珍しい恐竜のアマルガサウルスなどをメインに、草食恐竜のクリトサウルスとバ タゴサウルス、肉食恐竜のピアトニツキサウルスなど大型の恐竜類の紹介、環境に適応して 広く海や空に発展していった爬虫類（魚竜のオフタルモサウルス、翼竜のアンハンゲエ ラ・ブリッタースドルフィなど）も展示した。また、このコーナーでは、プラジルから産 出する白亜紀の魚化石や昆虫類の化石も多く展示された。

III 「南アメリカにいた哺乳類」

かつて南アメリカだけに棲んでいたマクラウケニア、トクソドン、チラコスマイルス、巨 大アルマジロなど珍しい大型の哺乳類、また、北アメリカから南アメリカに渡ってきたステゴマストドン象やスマロドン、カピバラなどの珍しいネズミ類を展示した。特に、巨大 アルマジロは我々人類によって滅ぼされたとも言われるように、環境問題を考えていく上 で重要な絶滅動物で、貴重な展示となった。

IV 「人類、南アメリカへ」

南アメリカの人類の起源を考える上で重要な頭骨化石（ホモ・カブティンクリナトゥス、 ホモ・パンパエス）の展示が主に、南アメリカに住む人々の祖先が使用していた石器類を 展示し、2万年前にはじまる南アメリカの人類の歴史を説明した。

【反省・感想】 4、5、6月の展示期間は、特別展の時期としてはあまりいいとは言えな い期間であったが、3万人余の入館者があり、一応成功裡に終わった。特に、土日曜など 多くの子どもたちが見学し、巨大な恐竜を見上げて歓声をあげたりするのを見ると準備 の苦労も忘れる思いであった。その時、柄にもなく「恐竜へ子らの目が跳ぶ五月晴」などと、俳句を作つたものである。ただ残念なのは、高校生の観覧者や学校の団体見学が少なかったことである。時期なども含め、今後の特別展の反省点の一つである。また、 展示の準備期間を通して、アルゼンチンから来た恐竜組立技術者に対する通訳では、沖縄 県アルゼンチン協会の多大なる協力を得た。準備が短期間にスムーズに運んだのも協会の 協力のお陰だと感謝している。沖縄県ならではの協力ではなかつたかと思っている。

最後に、子どもたちの感想文を幾つか紹介する。「ずっと前にこんな大きな生き物が住んでいたなんてとてもびっくりしました。私たち人間が生まれた前にも、ほかの生物たちがいたんだなあ」、「いろんなきょうりゅうはじめて見るきょうりゅうがいっぱいいた。なかでもきょうりゅうのたまごがすごかった。」、「最初、入った時たくさんのきょうりゅうのかせきがあつておどろいた。わたしたちがいちばんふしげだとおもったきょうりゅうがいました。それはアマルガサウルスです。せなかにトゲのあつたきょうりゅうははじめ見て見たからです。」、「おにくがなかつたですね かみうんてん4さい」、「きょうりゅうのかおさわつたときのしかつた」など多くの感想が寄せられた。

【関連催事】

博物館文化講座

期 日：5月17日（土）午後2：30－4：30

講 師：長谷川善和（群馬県立自然史博物館館長）

演 題：今なぜアルゼンチンの恐竜か

場 所：沖縄県立博物館講堂

定 員：なし

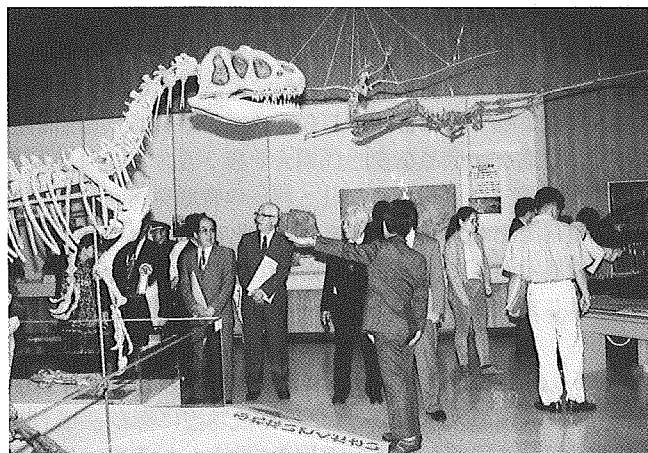
【入館料金】

大 人 500円（400円）

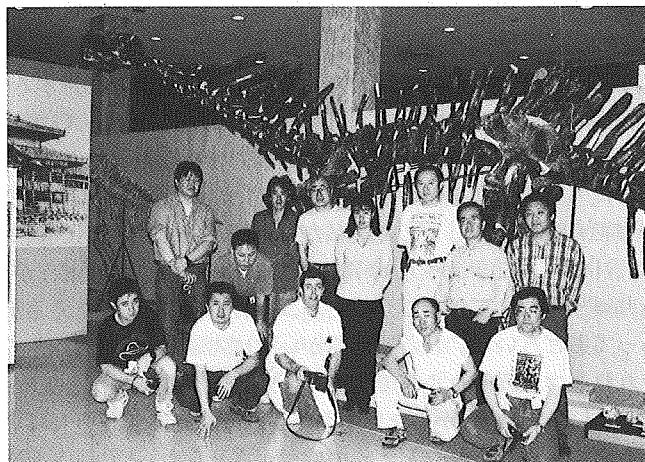
高・大学生 200円（160円）

小・中学生 100円（ 80円）

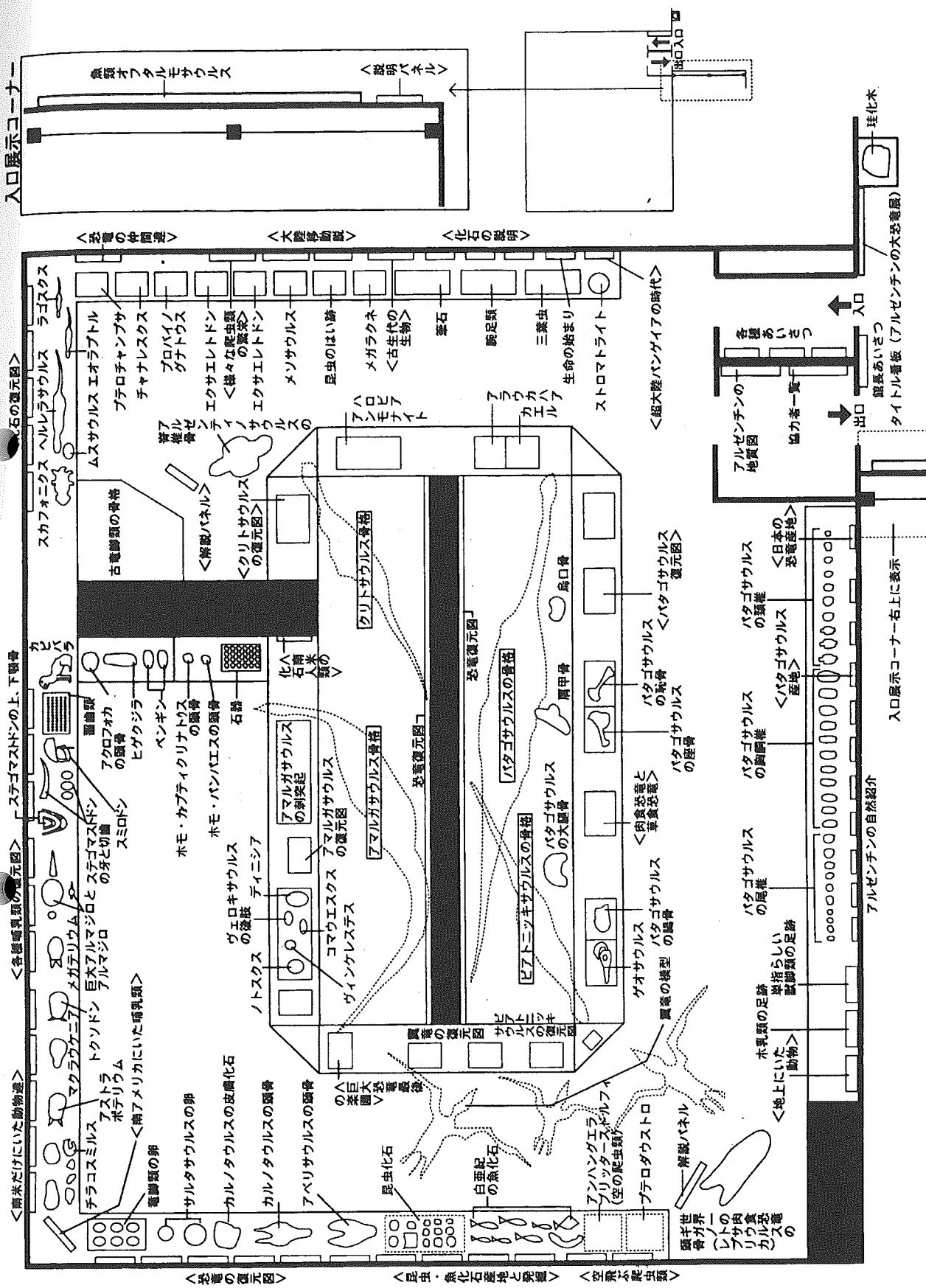
() の料金は20名以上の団体割引



オープニングの解説風景



恐竜組立て作業スタッフ



4 企画展

平成 8 年度「新収蔵品展」(担当:与那城、津波古)

会期: 平成 9 年 7 月 29 日(火) ~ 8 月 31 日(日)

会場: 企画展示室

〔開催主旨〕

「新収蔵品展」は、前年度に寄贈、購入、収集、移管された資料を一堂に集め、広く一般に公開するものである。この展示会は、収集された資料を紹介するとともに、博物館活動の啓蒙普及を促進することを目的とする。

〔展示内容〕平成 8 年度の新収蔵資料は、例年のように寄贈、購入、収集、移管によって収集された。特に、数十点まとまった形での寄贈が多く、県内はもとより県外や外国からの寄贈があった。外国からは、ハワイのフクダ氏の陶器と書跡、県外からは歴史資料を中心に寄贈いただいた齋藤氏や矢袋氏、県内では島袋氏、真喜志氏、知名氏、村山氏各氏からの民俗資料や楽器類がコレクションとして数が多いものであった。さらに国頭教育委員会や沖縄こどもの国から鳥類が寄贈され、当館において剥製にした。

これらすべての資料を展示公開することは、展示室のスペースから不可能であるため、各分野の担当学芸員の判断で、抜粋し展示した。展示は、できるだけ分野、受理次第、寄贈者ごとに分け、行った。したがって、資料によっては、同じ寄贈者でも分野で分けて展示したものもある。(展示レイアウト参照)

〔展示目録〕

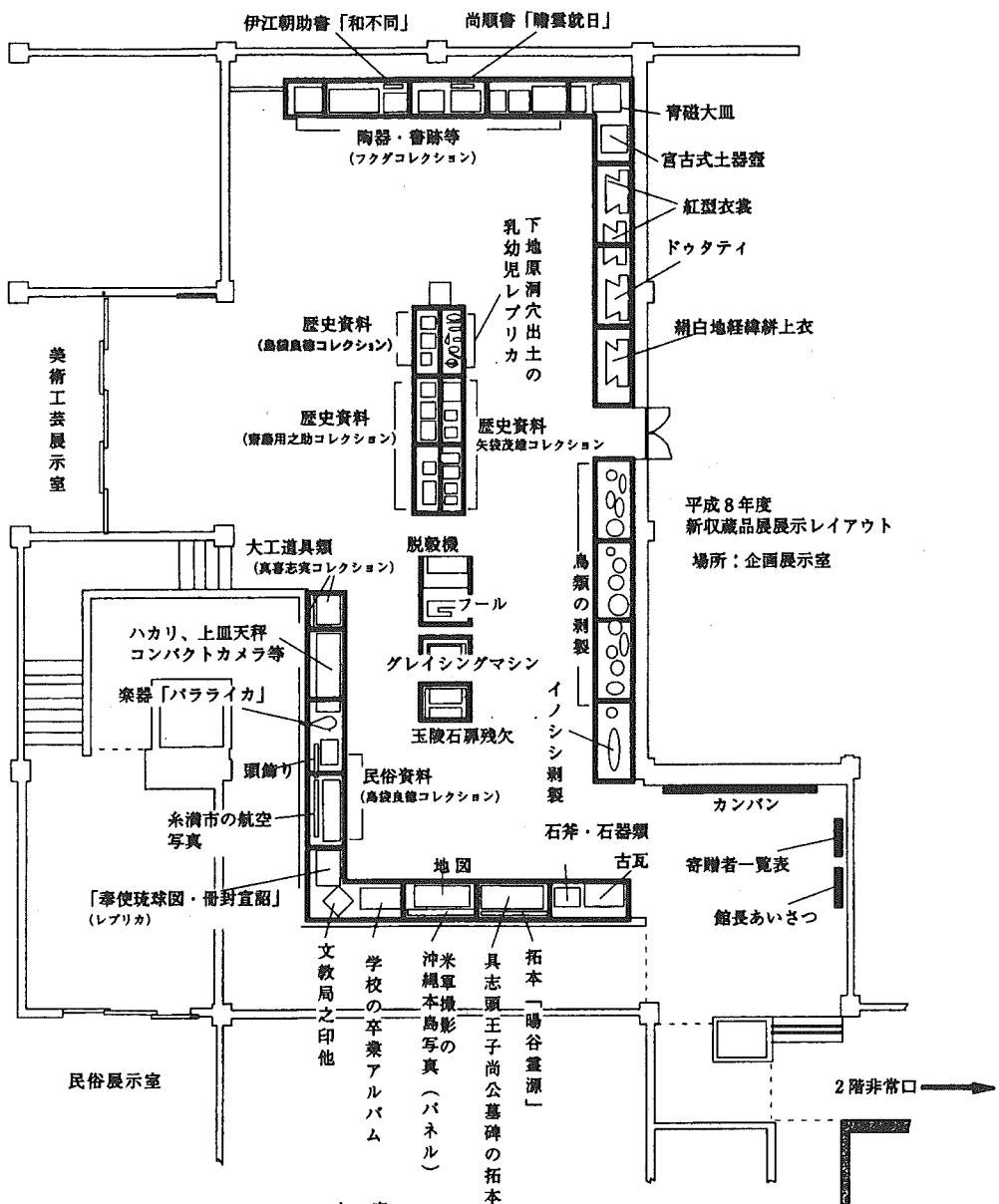
寄贈の部: 石斧・石器類、古瓦、拓本「具志頭王子尚公墓碑」、拓本「陽谷靈源」、地図、学校の卒業アルバム、糸満市の航空写真、中国の民族資料(頭飾り等)、楽器(パラライカ)、ハカリや上皿天秤、コンパクトカメラ、大工道具類、玉陵石造扉残欠、フール、脱穀機、齊藤用之助賞勲証、ガラス乾板(首里城漏刻門と日時計)、絹白地経緯絣上衣、ドゥタティ、宮古式土器、青磁大皿、尚順書「瞻雲就日」・伊江朝助「和不同」・陶器類、鳥類の剥製 等

購入の部: ニホンイノシシ、下地原洞穴産乳幼児骨化石レプリカ、米軍撮影の沖縄本島写真(パネル)、奉使琉球図より「冊封宣詔」(レプリカ)、草花繫文様紅型衣裳、菊に扇文様紅型衣裳、沖縄県工業指導所書類等

展示目録は、各コーナごとに抜粋して記したが、平成 8 年度のすべての新収蔵品は、刊行したパンフレット「平成 8 年度収蔵品展」に掲載した。なお、ハワイのフクダ・ケイコ氏の寄贈物件は別に「フクダコレクション」としてまとめ、パンフレットを製作した。

〔開会式及び感謝状授与式〕

平成 9 年 7 月 29 日(火)午前 10:00 に館長室において、寄贈者への感謝状贈呈式を行った。その後午前 10:30 から企画展示室入り口で開会式及びテープカットを行い、企画展・平成 8 年度「新収蔵品展」を開会した。感謝状は島袋良徳、平良盛寿、神村真紀子、金城徳一の各氏に贈呈された。なお、フクダケイコ氏については、平成 8 年 10 月 31 日に仲里教育長より感謝状が贈呈されたことを追記しておく。



オープニングの展示解説風景

史跡首里城跡「京の内」の出土品展（担当：文化課・史跡係、博物館・仲間留美、津波古聰）

場所：沖縄県立博物館企画展示室

会期：1997年11月1日（土）～11月16日（日）

主催：沖縄県教育委員会文化課

共催：沖縄県立博物館

〔開催主旨〕

平成4年、首里城は、正殿を中心に南殿・北殿・奉神門などが復元され、国営沖縄記念公園の首里城地区として一般公開されている。しかし、首里城の復元は、現在も継続しており、なかでも「京の内」は、城内にある信仰地のなかでも最高の場所と言われながら、詳細な資料がなく、首里城のなかでも謎の多い神秘的な部分もある。この「京の内」の発掘調査が平成6年から平成8年にかけて県の文化課によって行われた。

「京の内」出土品は、中国やタイ産の陶磁器類、さらに日本の備前焼の陶器類も含まれている。これら資料は、発掘場所の性格も併せてみると極めて貴重な資料といえる。今回、調査の途中ではあるが、すこしでも早く一般県民に公開することによって、首里城復元の意義を高め、県民の文化の向上に資することを目的に展示会を開催した。

〔展示内容〕

今回の展示は、県文化課が、資料の提供、選別や説明パネルなどを準備作成した。展示は、県文化課及び県立博物館の共同によって行われた。

展示品は、出土品が整理途中であるため、出品数は50数点となった。展示スペースも企画展示室の半分を使用し、開催した。展示は、時代別、技法別、国別に分け、展示了。特に世界でも例のない紫色の紅釉水注は、復元図とともに展示了。壁は、首里城の歴史年表や「京の内」跡遺構配置図、写真パネル等を展示し、展示品の補足資料とした。

（展示レイアウト図参照）

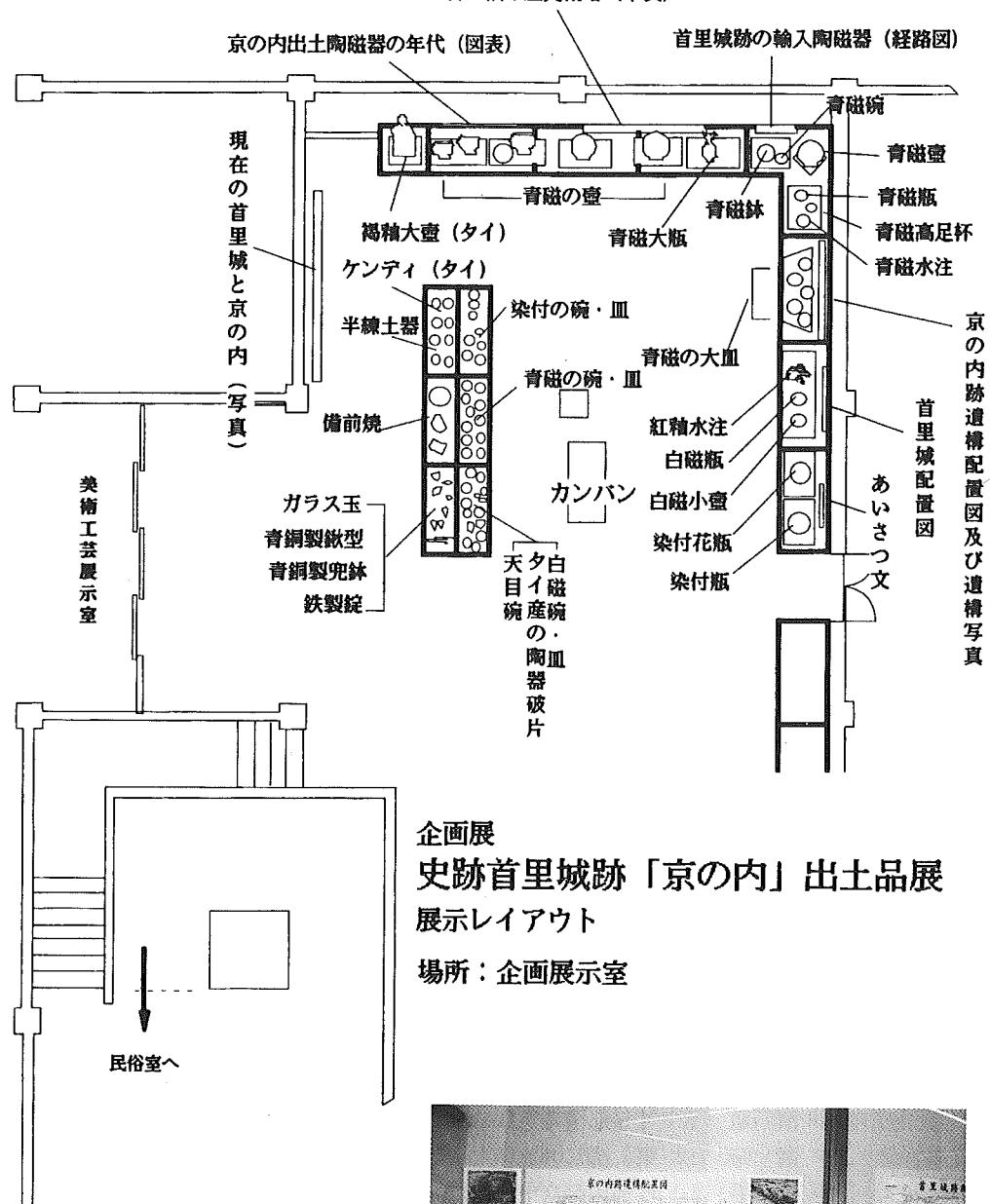
〔展示目録〕

1・青磁の碗（青磁ラマ式蓮弁文碗など）4点、2・青磁の大皿（青磁牡丹唐草花文大皿など）5点、3・青磁の皿（青磁外反口縁皿など）4点、4・青磁雷文帶大鉢1点、5・青磁の壺（青磁牡丹唐草花弁壺など）5点、6・青磁牡丹唐草文水注1点、7・青磁の瓶（青磁唐草文瓶など）2点、8・青磁高足杯（馬上杯）1点、9・白磁の碗（白磁内湾口縁碗など）4点、10・白磁の皿（白磁挿入高台皿など）2点、11・白磁小壺1点、12・白磁瓶1点、13・染付碗（染付宝相華唐草文碗など）3点、14・染付麒麟文皿1点、15・染付瓶（染付牡丹文瓶など）2点、16・ケンディ（染付龍文水注など）2点、17・天目碗1点、18・赤絵碗1点、19・紅釉水注1点、20・瑠璃釉水注1点、21・墨書陶器（「明」の墨書）1点、22・タイ産の陶器3点、23・備前焼3点、24・その他（ガラス玉、青銅製鉢形、青銅製兜鉢、鉄製鏡）4点

〔備考〕

今回の展示会は、諸般の事情により、特に開会式を設けず、開催した。補足資料として、出展した資料の一覧を記した史跡首里城跡「京の内」の出土品展と題したチラシを製作し、配布した。

首里城の歴史概略（年表）



展示風景（右端が紅釉水注）

史跡首里城跡「京の内」の出土品展（担当：文化課・史跡係、博物館・仲間留美、津波古聰）

場所：沖縄県立博物館企画展示室

会期：1997年11月1日（土）～11月16日（日）

主催：沖縄県教育委員会文化課

共催：沖縄県立博物館

〔開催主旨〕

平成4年、首里城は、正殿を中心に南殿・北殿・奉神門などが復元され、国営沖縄記念公園の首里城地区として一般公開されている。しかし、首里城の復元は、現在も継続しており、なかでも「京の内」は、城内にある信仰地のなかでも最高の場所と言われながら、詳細な資料がなく、首里城のなかでも謎の多い神秘的な部分もある。この「京の内」の発掘調査が平成6年から平成8年にかけて県の文化課によって行われた。

「京の内」出土品は、中国やタイ産の陶磁器類、さらに日本の備前焼の陶器類も含まれている。これら資料は、発掘場所の性格も併せてみると極めて貴重な資料といえる。今回、調査の途中ではあるが、すこしでも早く一般県民に公開することによって、首里城復元の意義を高め、県民の文化の向上に資することを目的に展示会を開催した。

〔展示内容〕

今回の展示は、県文化課が、資料の提供、選別や説明パネルなどを準備作成した。展示は、県文化課及び県立博物館の共同によって行われた。

展示品は、出土品が整理途中であるため、出品数は50数点となった。展示スペースも企画展示室の半分を使用し、開催した。展示は、時代別、技法別、国別に分け、展示した。特に世界でも例のない紫色の紅釉水注は、復元図とともに展示した。壁は、首里城の歴史年表や「京の内」跡遺構配置図、写真パネル等を展示し、展示品の補足資料とした。

（展示レイアウト図参照）

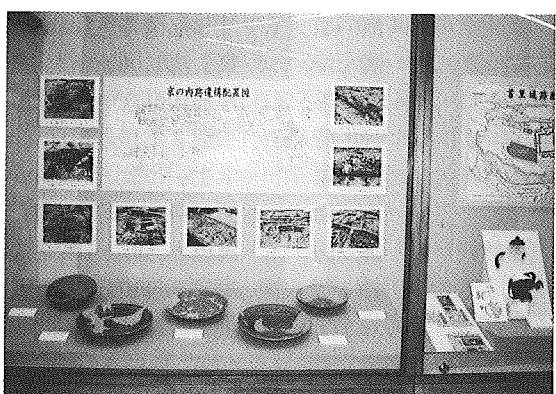
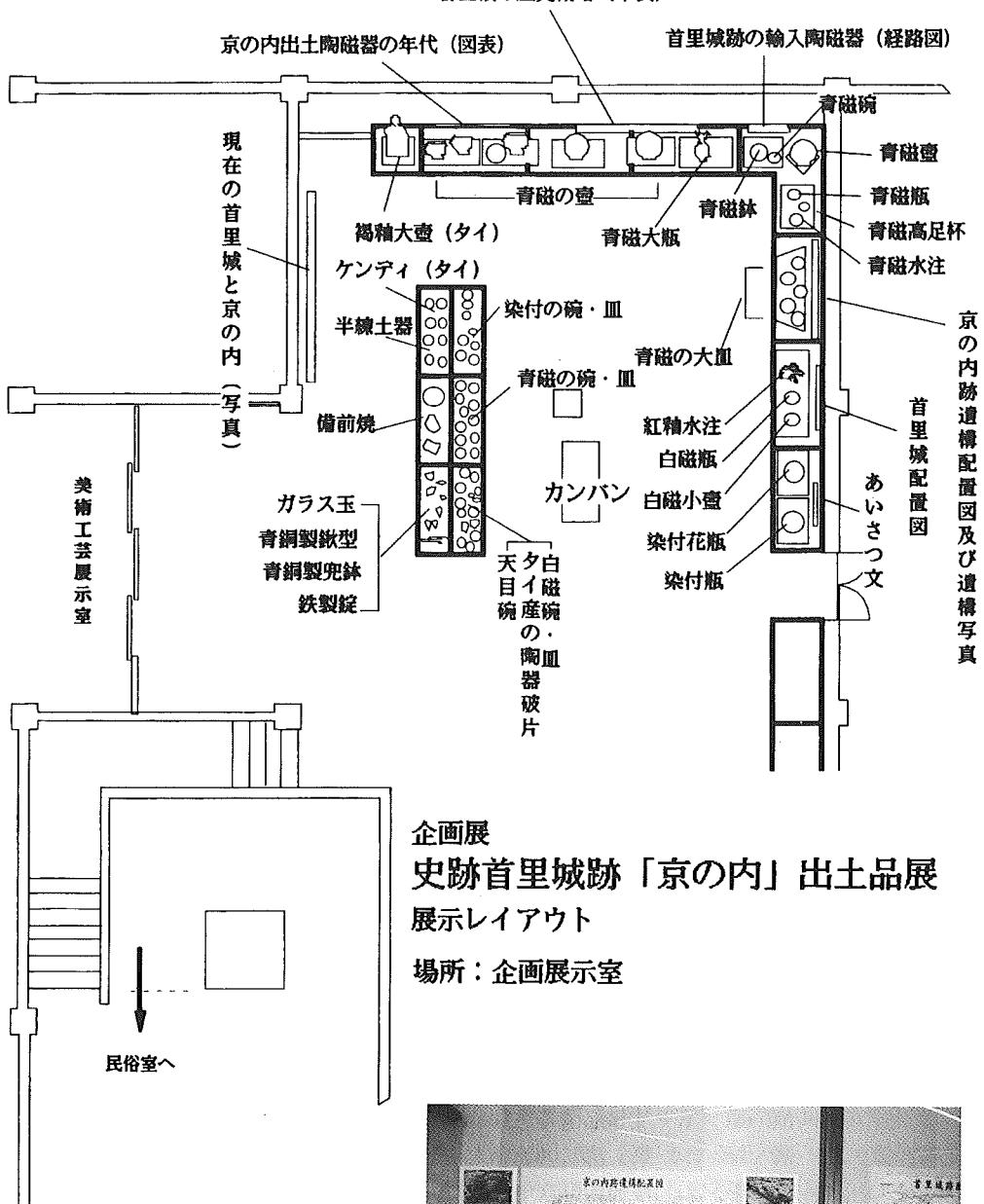
〔展示目録〕

1・青磁の碗（青磁ラマ式蓮弁文碗など）4点、2・青磁の大皿（青磁牡丹唐草花文大皿など）5点、3・青磁の皿（青磁外反口縁皿など）4点、4・青磁雷文帶大鉢1点、5・青磁の壺（青磁牡丹唐草文花弁壺など）5点、6・青磁牡丹唐草文水注1点、7・青磁の瓶（青磁唐草文瓶など）2点、8・青磁高足杯（馬上杯）1点、9・白磁の碗（白磁内湾口縁碗など）4点、10・白磁の皿（白磁抉入高台皿など）2点、11・白磁小壺1点、12・白磁瓶1点、13・染付碗（染付宝相華唐草文碗など）3点、14・染付麒麟文皿1点、15・染付瓶（染付牡丹文瓶など）2点、16・ケンディ（染付龍文水注など）2点、17・天目碗1点、18・赤絵碗1点、19・紅釉水注1点、20・瑠璃釉水注1点、21・墨書陶器（「明」の墨書）1点、22・タイ産の陶器3点、23・備前焼3点、24・その他（ガラス玉、青銅製鉄形、青銅製兜鉢、鉄製錠）4点

〔備考〕

今回の展示会は、諸般の事情により、特に開会式を設けず、開催した。補足資料として、出展した資料の一覧を記した史跡首里城跡「京の内」の出土品展と題したチラシを製作し、配布した。

首里城の歴史概略（年表）



展示風景（右端が紅釉水注）

5 移動博物館

第22回 移動博物館

会期：1997(平成9)年10月17日(金)～19日(日)

会場：与那国町立与那国小学校体育館

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・与那国町・与那国町教育委員会

[趣旨]

本県は亜熱帯に属する島嶼県である。その地理的特性を生かし、歴史的に日本本土や中國東南アジアとの交易を盛んに行った地域であり、琉球王国時代から独自の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していくかなければならない。そのため沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない、離島や遠隔地の方々にも、移動博物館の展示を見ることによって、文化の広域普及を図っている。第22回目は与那国町において開催した。

[内容]

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈文化講座〉〈自然観察会〉で構成した。展示は「古代の生物」「沖縄の自然と歴史文化」の2つの大きなテーマから構成し展示を行った。また、展示会場にビデオ放映コーナーを設け、沖縄の伝統工芸や自然に関するビデオを放映した。さらに文化講座や自然観察会も合わせて実施した。

〈展示会〉会場：与那国町立与那国小学校体育館

会期：平成9年10月17日(金)～19日(日)

対象：幼・小・中・高校生、一般

入場：無料

〈ビデオ放映〉内容：「琉球の風物」「琉球の民芸」「東洋のガラパゴス」「酒だ忍法コノハチョウ」「トンボの愛はハート型」他

〈文化講座〉演題：「与那国昆蟲について」

講師：東 清二(琉球大学教授)

会場：与那国町立中央公民館

日時：平成9年10月18日(土)午後5時～午後7時

対象：学生、一般

入場：無料

〈自然観察会〉講師：嵩原 建二(県立博物館学芸員)

日時：平成9年10月19日(日)午前9時～12時

対象：学生、一般

定員：40名

[入場者数]	展示会	1, 178人
	文化講座	47人
	自然観察会	59人
		合計 1, 284人

[予 算] 国庫補助を得て、総額7,576,000円。内訳は、諸謝金33000(円)、旅費1,901,036(円)、需用費895,964(円)、通信運搬費4,746,000(円)。

〔展示品目録〕

古代の生物

サウロロフス(レプリカ)、マンモス(レプリカ)、ナウマンゾウの歯、タルボザウルス頭骨(レプリカ)、恐竜の卵の化石(レプリカ)、アンモナイト、コレニア、ミヤコノロジカ

沖縄の自然と歴史文化

【自然史】

沖縄の生物

《剥 製》

アカショウビン、オオコノハズク、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、コガモ、コノハズク、サシバ、サンコウチョウ、シロハラ、シロハラクイナ、ズアカアオバト、タゲリ、トラツグミ、ノグチゲラ、ヒクイナ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、タカ、リュウキュウヨシゴイ、イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ハブ、サキシマハブ、ケナガネズミ

《写真パネル》

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、アサヒナマキダラセセリ、イソヒヨドリ、カワセミ、カンムリワシ、クロサギ、コサギ、オオコノハズク、コチドリ、ササゴイ、サンコウチョウ、シロハラ、シロハラクイナ、アオズク、アオサギ、カラスバト、キンバト、ダイシャクシギ、タゲリケリ、ノグチゲラ、カツブリ、バン、コミニズク、ヒヨドリ、ミフウズラ、アカハラダカ、ムナグロ、メジロ、リュウキュウヨシゴイ、マミジロタヒバリ、チュウサギ、アマミヤマシギ、アマサギ、キョウジョシギ、キアシシギ、ナミエガエル、ホルストガエル、イリオモテヤマネコ、ケラマジカ、ダイトウオオコウモリ、クメトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ

【考古】

港川人想定復元全身像(レプリカ)、港川人頭骨(レプリカ)、石斧、叩石(与那原採集)、凹石(与那国島採集)、荻堂式土器、大山式土器、カヤウチバンタ式土器、縄文土器、石鎌、尖底土器、カムイヤキの壺、外耳土器、滑石製石鍋(破片)、貝斧、青磁碗、青磁皿、炭化米(久米島出土)、自然遺物(貝殻)、線刻石板(北谷町で発見)、トゥグル浜遺跡遺物(沖縄県教育委員会文化課所蔵)、慶田崎遺跡遺物(沖縄県教育委員会文化課所蔵)、与那原遺跡遺物(沖縄県教育委員会文化課所蔵)

写真パネル

発掘のようす、層のかさなり、渡具知東原遺跡(遠景)、竪穴住居跡(仲原遺跡)、装身具、イモガイの集積遺構、人骨出土状況、首里城(基壇)、貝輪を着装した人骨、勝連城(航空写真)、御物グスク(近景)、タカフク城(波照間島)、神田貝塚、文字パネル、先島考古編年表、先島古代史地図、先島文化の源流、貝の道(図)、与那国島遺跡分布図、グスクの性格、沖縄地域古代史地図

【歴史】

拓本・パネル

明孝宗より尚真王への勅書、万国津梁之鐘銘文、万国津梁之鐘、円覺禪寺記、国王頌徳碑古錢類

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、金円・世高・大世、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、咸豐通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、天聖元宝、嘉泰通宝、開禧通宝、瑞平通宝、元豐通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、咸淳元宝、乾隆通宝、鳩目錢、寛永通宝

勾玉類

リング（18個連）、リング（8個連）、リング（小勾玉にビーズ付）

印 章

尚育王の印

金工品

かんざし

典籍類

おもうさうし、中山世鑑、琉球三省並三十六島図、与那国島図誌、沖縄志、江戸上行列（瓦版）、質問本草、南島覚書、南嶋探検

その他

尚寧王妃墓誌、鳥居龍藏博士撮影写真資料カタログ〔東京大学総合研究資料館蔵〕

写真パネル

ランドサット沖縄諸島

〈戦前の沖縄〉

・鎌倉芳太郎氏撮影

初代尚円王御後絵、13代尚敬王御後絵、首里城正殿、円覺寺仏殿、首里那覇全景

・坂本万七氏撮影

玉陵、青空教室、葬式行列、苧びき、木臼つくり、壺屋風景、魚市、市場風景、ハンタン山、墓、カメを売る店、竹製品を運ぶ荷馬車、サーティグルマ、那覇東町の布町

〈沖縄戦〉

十・十空襲後の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏をよびかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

〈戦後～現在〉

テント小屋教室、憔悴しきった老人、DDT散布、戦後のヤミ市、ハワイよりの衣類到着、スクラップブーム、軍政府文教部、第九回沖縄議会の状況（志喜屋知事）、中学生と握手するブース高等弁務官、Aサインバーの内部（沖縄市）、B52墜落事故、アイゼンハワー大統領来沖、主席当選を果たした屋良主席、教公二法、返還協定調印式をテレビで見まもる屋良主席、通貨交換所風景、7・30（ナナサンマル）風景

【美術工芸】

漆 器

朱漆山水楼閣人物椎錦重箱、黒漆山水螺鈿六角食籠

陶 器

緑釉嘉瓶、アンダガーミ、白釉黒流からから、線彫草花文からから、釘彫抱瓶、赤絵魚文皿、赤絵対瓶、線彫魚文花瓶（金城次郎作）、獅子（島常賀作）

絵 画

男女の図、旅姿女人図、沖縄風景絵図

書 跡

清風（古波藏爾方書）、紅葉如醉（宜湾朝保筆）

織 物

木綿黄色地松皮菱繋に桧扇団扇菊牡丹文様胴衣、木綿白地カカン、木綿紺地手縞上衣、芭蕉紺地上衣（黒朝衣）、絹黄色地緯錦帶（上江洲智泰氏蔵）、木綿紺地花織ティサジ、黄冠（ハチマチ）（上江洲智泰氏蔵）、木綿白地板花織ティサジ

彫 刻

玉陵石彫獅子

【民 俗】

民俗知識

クバの葉つと

衣食住

クバみの、シュロみの、スゲみの、クバ笠、クバうちわ、ヘーグルサー、クバの葉の簾、イビラ、べんとう箱、カマブクハグ、ダイバヌブトウ、クバガサ、ジュラルミン製擂鉢、ソクリ（飯びつ笊）、ウブル（ビロウの釣瓶）、クシンキ（こしき）、ムンジュル笠（麦藁笠）、ダイインウルシー、ソーキ（米あげ笊）

運 搬

イーディル（蓋籠）、イーディル（弁当箱）、アンディル、ガンシナ

生 業

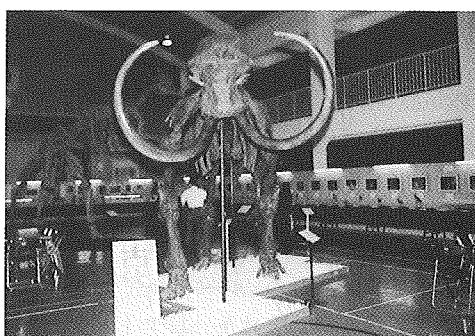
キバナ、チー（わらじ）、ブンキー（粗笊）、チャーキー（笊）、ンピア（苗籠）、ムイ（笊）、カンマ（円笊）、ミーゾーキ（円笊）、ガロア（円籠）

信 仰

ダシカ・クディ、ダシカ・グサン、シルンナー

写真パネル

獅子舞、カンブナガ（冬祭）、シツイ（節祭）のミロク、シツイ（節祭）のマユンガナシ、盆アンガマの面、パートントウの面、スンドーの面

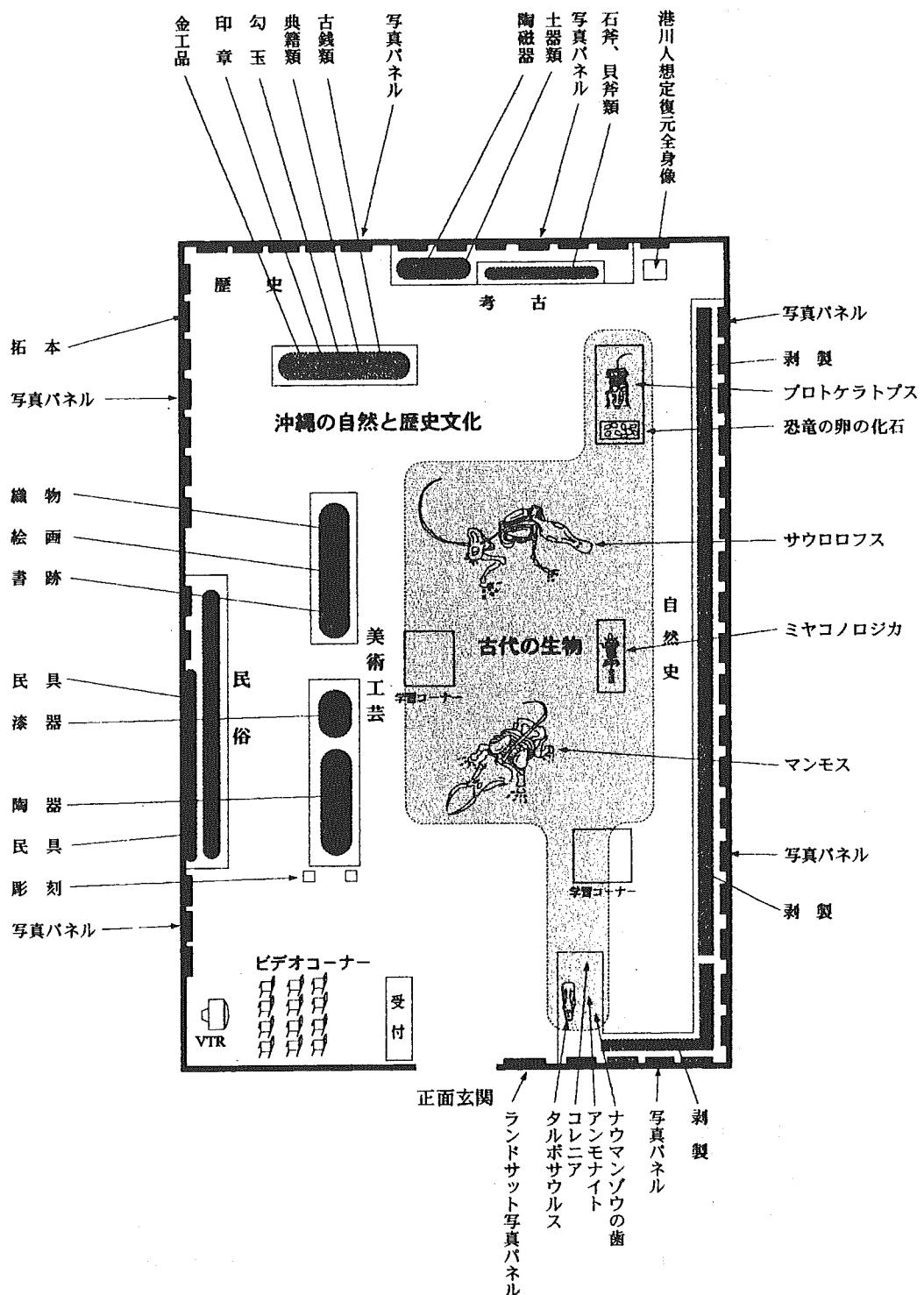


展示風景



文化講座「与那国の昆虫について」

第22回 移動博物館
展示略図
(与那国小学校体育館)



V 教育普及活動

1 教育普及活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎える博物館に対する県民の関心は日々高まっている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命とすると同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地球における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とくに最近の傾向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的をもって来館している。

このような来館者の要求に少しでも多く応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきた。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう、戦後50年を迎えるにふさわしい内容等も取り上げながら、多彩な事業を計画し実施してきた。

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（特別文化講座を含め270回～279回までの11回）
2. 第22回移動博物館（与那国）の開催
3. 夏休み「歩く・見る・作る」教室の実施
4. 子ども体験学習教室の実施
5. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行
6. ボランティア活動事業
7. 博物館を利用する団体への研修
8. 観覧者への展示解説
9. 学校による博物館学習の事前打ち合わせ
10. 児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
11. 児童生徒への学習相談
12. 団体見学者へのビデオサービス
13. 博物館事業のマスコミ等への広報活動
14. 友の会への指導や援助

2 博物館文化講座

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて、分かりやすい内容で楽しく学習ができる目的に1974年から始まった事業である。原則として、毎月第3土曜日の午後2時30分から4時30分までの2時間を利用し、当館講堂にて行なっている。

1997年度は特別文化講座「組踊公演会」を含め11回の講座を実施した。展示会と関連した「今なぜアルゼンチンの恐竜か」や「組踊写本の現状と上演」「古人骨は語る～沖縄人のルーツ～」では、それぞれ最新の研究成果を含めた内容で興味深い講演となった。また、他では取り上げられることの少ない事柄についての「民間の哲学者ユタ～揺れる民俗的世

界観～」「近世の学校と試験～科（こう）を中心に～」「西南中国の酒と泡盛」の講演では、参加者の関心も高く意義深いものであった。また、十数年ぶりに企画した地質分野の「沖縄島の生い立ち～地層観察会～」では、実際に化石の採集を行い大変好評であった。その他、定期的に行っている「野鳥観察会」「遺跡めぐり」の講座も人気が高かった。「収蔵資料解説会」は、普段なかなか間近で観ることのできない資料にふれることができるとあって好評であった。

1997年度の第272回から参加者へのアンケート調査を行っており、参加者の意見も取り入れつつ、今後の文化講座を企画していきたい。

第270回 「今なぜアルゼンチンの恐竜か」

講 師：長谷川 善和（群馬県立自然史博物館館長）

日時・場所：5月17日（土） 当館講堂

内 容：アルゼンチン（南米）のめずらしい恐竜たちを紹介し、恐竜進化の起源について解説した。

参 加 者：98名

第271回 「民間の哲学者ユタ～揺れる民俗的世界観～」

講 師：玉城 毅（沖縄民俗学会会員）

日時・場所：6月21日（土） 当館講堂

内 容：ユタを民俗的世界観の再構築者として捉え、ユタの表現する世界観のバリエーションと変容を探る講演を行なった。

参 加 者：198名

第272回 「沖縄島の生い立ち～地層観察会～」

講 師：神谷 厚昭（当館指導主事）

日時・場所：7月19日（土）12:00～16:30 与那城町海岸・宮城島

内 容：島尻層に産出する化石を採集して、沖縄本島中南部の島の生い立ちについて学んだ。

参 加 者：40名（定員あり）

第273回 「組踊写本の現状と上演」

講 師：當間 一郎（当館館長）

日時・場所：8月30日（土） 当館講堂

内 容：本土や県内に現存する組踊写本の内容紹介とそれの中から復活上演するまでの取り組み等について語った。

参 加 者：87名

第274回 「近世の学校と試験～科（こう）を中心に～」

講 師：田名 真之（那覇市歴史資料室室長）

日時・場所：9月20日（土） 当館講堂

内 容：近世沖縄の学校制度と就職試験（科）について解説した。

参 加 者：61名

第275回 「野鳥観察会」

講 師：与那城義春（当館指導主事）

日時・場所：11月15日（土）13:00～15:00 漫湖周辺

内 容：干潟の野鳥と干潟の環境について、観察会を通して学んだ。

参 加 者：30名（定員あり）

第276回 「遺跡めぐり～荻堂貝塚・大山貝塚～」

講 師：當眞 嗣一（当館主幹兼学芸課長）

日時・場所：12月20日（土）14:00～17:00 荻堂貝塚・大山貝塚

内 容：本島中南部に所在する荻堂貝塚及び大山貝塚を訪ね、沖縄の先史時代について学習した。

参 加 者：45名（定員あり）

第277回 「西南中国の酒と泡盛」

講 師：萩尾 俊章（当館学芸員）

日時・場所：1月17日（土） 当館講堂

内 容：西南中国の貴州省、雲南省、福建省の酒「泡盛」を比較しながらその関連性について解説した。

参 加 者：70名

第278回 「古人骨は語る～沖縄人のルーツ～」

講 師：土肥 直美（琉球大学助教授）

日時・場所：2月21日（土） 当館講堂

内 容：骨は私たちに何を語ってくれるのか。また、骨のかたちを通してみた沖縄の人びとの成り立ちなどについて紹介した。

参 加 者：124名

第279回 「収蔵資料解説会～琉球の絵画～」

講 師：津波古 聰（当館指導主事）

日時・場所：3月14日（土） 当館講堂

内 容：琉球の絵画について当館の収蔵品を通して解説した。

参 加 者：53名

平成9年度博物館特別文化講座「組踊公演会」

（担当者：萩尾俊章、太田健一、仲間留美）

日 時：1998年1月25日（日） 15:00～17:00

場 所：沖縄県立博物館講堂

入場料：無料

入場者：360人

〔開催趣旨〕

組踊は、1972年（昭和47）5月国指定無形文化財となり、平成9年12月には、国立組踊

劇場の建設場所も浦添市に決定し、組踊に対する県民の関心は高い。このような機会に沖縄県立博物館で組踊を上演することは、県民の郷土に対する関心と認識を深め、若い世代へ郷土文化を継承し、新しい文化の創造に寄与するうえで重要な意味をもつ。

上演した組踊「身替忠女」は、1988年（昭和63）に、當間一郎館長が発見した組踊四番の中の一つであり、1756年（尚穆5）に御冠船踊の演目として、首里城内の特設舞台で上演されたものである。1996年にその舞台となった東風平町で241年ぶりに上演され、この組踊をゆかりのある首里の地で上演し広く県民に観ていただくことは、大変意義深いことである。そこで東風平町文化協会及び東風平町教育委員会の協力を得て、特別文化講座と位置づけ上演した。

〔開催形式〕

主 催：沖縄県立博物館

共 催：東風平町文化協会、東風平町教育委員会

〔内容〕

第一部 琉舞三題・・・・・東風平町文化協会

「かぎやで風」 金城 光子 <守芸の会>、大城 好枝 <寿乃会>
金城 光子 <扇寿会>
「靡(せい)」 岸本 正子 <七扇会>
「かなよ一天川」 具志堅イク子<翔節会>、我如古磨佐子<翔節会>

第二部 組踊「身替忠女」・・・東風平町文化協会

<配役> 長田の子（神谷 武史）、八重瀬若按司（中村 知子）
慶留の比屋（海勢頭あける）、慶留の子（神谷 清一）
玉の乙鶴（大城加奈子）、世名城の子（川武 剛）
お供1（神谷 尚希）、お供2（山城 大地）
糸数の按司（石原 達也）、をなぢやら（真志取絹子）
志堅原の子（海勢頭秀光）、百名の子（野原 和文）
富名腰の子（国吉 幸雄）、列女（浦崎 利枝、金城奈津子、具志堅貴美）
きやうぢゃこ持ち（野原 幸則）、後見（金城 涼子）

<地謡> 噴・三線（新垣 万善、神谷 清吉、永山 安一、新垣 清徳、
神谷 盛幸、金城 善雄、新垣 善三）
琴（宮城 光子）、胡弓（知花 勇）、笛（仲田 治巳）
太鼓（与儀 竹乃）

立ち方演出：武富良規

作 舞：諸屯節（岸本 正子）、港原節（海勢頭あける）
あがさ節（金城 和子）、揚作田節（金城 和子）
口説（海勢頭あける）

〔あらすじ〕

糸数按司の夜討ちにより八重瀬城は亡ぼされ、長田の子によって助け出された八重瀬若按司は、同士の慶留のひや、慶留の子のもとにかくまわれ敵討の機会を待っていた。その

間、おちこんでいる若按司を慰めたのが慶留の子の娘玉の乙鶴であった。

一方、取り逃がした若按司の行方を追う糸数按司は、その若按司の居場所を突止め、家臣の志堅原の子を慶留のひやの屋敷へ向わせた。志堅原の子は供らを引き連れ、慶留のひやのもとへ行き、すぐに若按司を引き渡すように告げる。慶留のひやは、若按司に女の衣裳を着せ難を逃れようとする。その騒ぎを聞いた乙鶴は、父慶留の子に、若按司の身替わりになることを申し出て、さらに、自分の首をはねて敵方へ渡すことを願い出る。親として心苦しく思い、まよう父に、忠義の心を説く乙鶴。その心に深く打たれた父は、乙鶴の首をはね、それを志堅原の子にさし出した。受け取って急ぎ戻ろうとする家臣に、慶留の子は、首を持ち帰らないように願い出た。家臣もその願いを聞き入れ首を置いて戻って行った。

乙鶴の身替わりで助かった若按司は、乙鶴を終生の妻とし、自分を婿にしてくれと願い出る。祖父の慶留のひやは、その願いを聞き入れた。

乙鶴の用いをすませ、糸数按司を討つ好機を待つ若按司たちは、糸数按司が来る3月3日に浜遊びをすることを聞き、その計画を立てる。その日、若按司が女身になって按司の浜遊びに近づき、踊りを見せて油断させたところで名乗りをあげ、首尾よく糸数按司を討ちとった。

[総括]

無形文化財については、展示などが難しく、今回「組踊公演会」として実施できたことは県民に郷土の文化の一つとして組踊を再認識してもらうためにも意義深いものであった。また、人々の関心も高く公演会を実施した講堂は立見者がでるほどの盛況ぶりであった。今後も、このような無形文化財などの分野も取り入れていきたい。

3 夏休み「歩く・見る・作る」教室

夏休みは、子どもたちが学校を離れ自ら様々なことを学ぶことができる絶好の機会であり、同時に親子の触れ合いを深める機会が持てる“時”である。この事業は、この様な夏休みを親子で有意義にすごし、あわせて郷土の文化を学ぶ場を提供することを目的に1991年から実施されている。原則として、夏休み期間中の土曜日または日曜日の午前9時から午後1時までの4時間とし、場所の指定がない場合は当館講堂を利用している。

1997年度は、「親子でスケッチをしよう」と「古代人の生活を体験しよう」の2つの教室を開催した。

「親子でスケッチをしよう」は、前半は講堂で色の使い方や表現方法を学んだ後、後半は野外でスケッチを行なった。子どもたちにとって、色の使い方などを学ぶ良い機会であったと思われるが、1回のみの教室では不十分な面もあり、回数を少し増やす等の改善が必要である。

「古代人の生活を体験しよう」は、火おこし器を使用しての“火おこし”や、掘り棒を使ってのイモ掘り、石焼き料理の食事等に親子で挑戦した。また、実際に復元された竪穴住居での宿泊は貴重な体験となった。しかし、この教室も1回のみの教室で、事前に古代人の生活などについて学ぶ機会を設けて行えば、より理解が深まったのではないだろうか。

「親子でスケッチをしよう」

講 師：田場 健章（神森中学校教諭）

日時・場所：8月9日（土） 当館講堂及び龍潭周辺

内 容：親子で野外に出て、スケッチの仕方を学んだ。

参 加 者：親子8組17名（定員あり）

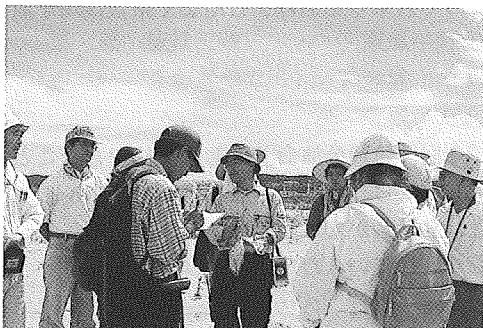
「古代人の生活を体験しよう」

講 師：仲底 善章（当館指導主事）

日時・場所：8月23・24日（土・日）一泊二日 仲原遺跡（伊計島）

内 容：伊計島仲原遺跡に復元された竪穴住居での宿泊を通して古代人の生活を体験した。

参 加 者：親子7組18名（定員あり）



地層観察会の様子



組踊「身替忠女」第2場。玉の乙鶴と若按司の踊り

4 衛生通信を利用した体験学習講座

1. 体験学習講座の内容

この講座は、1998年2月6日(土)・7日(日)の二日間にわたり、当博物館講堂で実施された事業である。

1日目は、メイン会場である国立科学博物館を拠点にして札幌青少年科学博物館、富山市科学文化センター、沖縄県立博物館を結んでの双方向講座であった。テーマは、“宇宙を探る”と題し、①天文学最前線、②宇宙からの訪問者—隕石についての話を中心に進め、また同時間帯に北と南の星座の様子を比べながらその違いについて学んだ。

2日目は、“土の中の小さな生き物、水の中の小さな生き物”をテーマに、富山や沖縄の小さな生き物などを比べながら、その違いや特徴などについて学んだ。

2. 体験学習講座の成果

- ① 衛生通信を利用した活動形態について学ぶことができ、これからの事業化に向けて参考になるものがたくさんあった。
- ② 提供してもらった受信装置は、今後とも活用可能であり、琉球大学主催の県内ボランティア講座の際にも受信し、学習に役立てることができた。

- ③ 子供たちが行ったFAXによる質問は沖縄会場から80もあり、子供たちのやる気に触発された。
- ④ 子供たちの質問に対する先生方の懇切丁寧な回答が、意欲を高めた。
- ⑤ この事業の実施状況を多くの大学生に見てもらい、将来の学芸員を目指す者に現場の状況を肌で感じてもらうことができた。

5 博物館シアター

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために実施している事業である。

自然、歴史、文化、民俗、風土などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午後2時より実施している。

平成9年度は、アイヌの生活文化を記録映像で紹介した「映像でみるアイヌ文化」、世界のアニメーションの先駆的存在である手塚治虫の、ダイナミックなストーリー漫画の世界を紹介した、夏休み親子シアター「手塚治虫の世界」、日本の映画史に残る名作の中から、松本清帳と橋本忍、野村芳太郎の、三人の共作による作品を紹介した「日本の名作」の3シリーズ・7本の映画を上映した。

シリーズ〔映像でみるアイヌ文化〕

第31回 期日：4月27日（日）

映画：「チセ・ア・カラ～われら家をつくる～」57分

内容：アイヌ文化の伝承者萱野茂氏を中心にしたアイヌの人々による伝統的な家（チセ）作り。その行程と儀礼を捻密綿密に記録し、教育映画祭優秀賞、東京都教育映画コンクール銀賞を受賞した作品を上映した。

入場者：76名

第32回 期日：5月18日（日）

映画：「イヨマンテ～熊おり～」103分

内容：アイヌにとって最大の儀礼であるイヨマンテ。この儀礼にはアイヌの自然観、生命観が凝縮している。日高地方のアイヌによるイヨマンテを、準備から記録した長編で北極園映画祭人類の遺産賞を受賞した作品を上映した。

入場者：89名

第33回 期日：6月29日（日）

映画：「アイヌの丸木舟」47分

内容：川を軸としたアイヌの伝統的生活にとって丸木舟はなくてはならない必需品であった。材料の木の選択から丸木舟作りに至る技術とそれにまつわる精神文化を記録した作品を上映した。

入場者：32名

シリーズ〔夏休み親子シアター「手塚治虫の世界〕

第34回 期日：7月27日（日）

映画：「リボンの騎士」63分

内 容：手塚治虫の不朽の名作である「リボンの騎士」は美しい色彩と楽しい音楽、そして素晴らしい物語で、見るものをファンタジィの世界に魅きこませる。主人公の夢と冒険は、子どもたちの心に夢をあたえる名作で、全国P T A協議会推薦作品を上映した。

入場者：123名

第35回 期 日：8月10日（日）

映 画：「鉄腕アトム」80分

内 容：伝説的ともなった不滅の名作、「鉄腕アトム」はアクションとユーモアに富んだ物語で、アトムという少年を通して人間のもつ弱点をさらし、人間性復活をめざして活躍する、少年ロボットの勇敢な姿を描いた作品を上映した。

入場者：254名

第36回 期 日：8月24日（日）

映 画：「ジャングル大帝」80分

内 容：生命を尊重し、生きとし生けるもの全てを愛するという立場から、生きるものを動物群と人間群にわけ、両者の歴史的葛藤を通して、万人が幸せになれる理想社会の姿を探り、その実現への努力と、未来への希望を描いた作品で文部省選定、日本P T A推薦作品を上映した。

入場者：256名

シリーズ〔日本の名作〕

第37回 期 日：12月14日（日）

映 画：「砂 の 器」133分

内 容：「砂の器」は松本清張の原作を、橋本忍が脚本を担当、監督を野村芳太郎が担当した大作。サスペンスの内部に人間の差別や愛憎の苦悩が、抑制されていながら見る者を圧倒する強烈な作品で、毎日映画コンクール作品賞、監督賞、脚本賞、音楽賞、モスクワ映画祭審査員特別賞、ソ連作曲家同盟賞等を受賞した作品を上映した。

入場者：170名

6 子ども体験学習教室

＜事業の経過＞

子ども体験学習教室の事業は、平成5年度から博物館の新規事業として開始本年度で6年目に入りました。

＜趣 旨＞

平成4年度から第2土曜日が学校休業日になり、さらには平成6年度からは第4土曜日も学校休業日となりました。それにともない子どもたちの活動の機会も増えてきた。当館でも「休業日」を利用して子どもたちが郷土や自然、文化を自ら進んで学べるように平成5年度からこの事業をスタートさせた。

ともすれば生活体験の乏しくなりがちな子どもたちに多くの活動体験の場を提供し、心

豊かな子どもを育てていくのが本教室の目的です。

＜実施講座＞

「豆とサトウキビを作ろう」

講 師：新垣正廣先生（翔南製糖農務課指導員）
：新垣 明 先生（J Aサンライズ西原営農指導員）
期 日：4月26日（土）、8月2日（土）、9月13日（土）、2月14日（土）
場 所：博物館講堂及び体験農場・翔南製糖西原工場
参 加 者：のべ256名
内 容：豆とサトウキビの特性や栽培方法について学んだ後、実際に農場に出かけ、植え付けから、除草、肥育管理、収穫の一連の作業を1年間を通して初めての企画です。前半は豆を育てて、収穫し、車棒で脱穀、石臼を挽いて、昔ながらの豆腐づくりに挑戦した。後半はサトウキビを育て、培土枯葉取り・収穫作業を体験した後、簡易しぼり機を使って黒砂糖づくりに挑戦しました。受講者の家族も参加し、その様子はラジオ沖縄の連続番組として多くの県民にも紹介された。



サトウキビのうねたて作業

「昆虫標本づくり」

講 師：佐藤文保先生（ゼロの森の会会員）
期 日：5月10日（土）、5月24日（土）、6月28日（土）
場 所：末吉公園及び当博物館講堂
参 加 者：のべ142名
内 容：末吉公園で標本になる昆虫の採取を行った後、標本の扱い方、薬品処理の仕方、展羽の仕方、ラベルを使用した整理の仕方を学習して、標本づくりを終了した。

「シーサーを作ろう」

講 師：金城 登 先生（沖縄県立首里高等学校教諭）
期 日：7月12日（土）、7月26日（土）、7月27日（土）
場 所：当博物館講堂及び前庭
参 加 者：のべ316名
内 容：沖縄のシーサーの歴史やその役割等を学習した後、シーサーの製作

過程について学び、その後製作に入った。受講者の個性のあふれる作品が出来、講師の金城先生の高い評価を受けた。

「連鳳（れんだこ）を作ろう」

講 師：上運天賢盛先生（本沖縄県警察学校指導教官）

期日・場所：11月8日（土）、11月22日（土）、12月13日（土）当博物館講堂

参 加 者：のべ82名

内 容：連鳳の仕組みやその製作過程を学び、頭部、胴体の過程を経て作品を完成させた。後日、首里高校野球場で「連鳳上げ」をして、受講者で楽しんだ。

7 ボランティア活動

<ボランティア活動の事業の経過>

平成5年7月1日に沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項が施行され、これにもとづき教育ボランティアと資料収集ボランティアの育成に努めてきた。

教育ボランティアは、展示解説、文化講座、体験学習教室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的な活動を行う。

資料収集ボランティアは調査研究活動に必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動を行う。

ボランティアとして登録できるものは、原則としてボランティア養成講座を修了した者とし、登録後は解説勉強会で研修を受けながら、活動を続けてきた。

<趣旨>

週休2日制が定着しつつあるなかで、生涯学習への要求が高まりつつある。このような時代に多くの県民に学習の機会を提供し、自己啓発の場とする目的として、本事業を実施した。

<事業の実施>

平成9年度からは、自前で教育ボランティア養成講座を企画し、その修了者の中からボランティアの登録を進めて、ボランティア活動の充実を図った。

1. 教育ボランティア養成講座（受講者：66名）

第1回 「民俗室の展示解説」

講 師：太田健一（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：7月9日（水）

内 容：民具とは何か、沖縄の民具の特性、民具の用途別分類、素材から見た沖縄の民具についての解説を行った。

第2回 「博物館って、どんなところ？」

講 師：仲底善章（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：7月23日（水）

内 容：博物館の意義や目的・機能などについて理論的な学習を深めた後、スライドを通して博物館の事業やボランティア活動の様子を学ぶ、

- 館内見学を通して施設としての博物館を学んだ。
- 第3回 「絵図の見方、楽しみ方」
講 師：萩尾俊章（沖縄県立博物館学芸員）
期 日：8月6日（水）
内 容：冊封と進貢関係の資料を中心に解説する。「奉使琉球図巻」「冊封使行列図」「進貢船の図」等を活用した。
- 第4回 「染織資料の見方、楽しみ方」
講 師：與那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）
期 日：8月13日（水）
内 容：染織資料の原材料について、糸のできるまで、布地について。組織や加飾について述べる。紅型の型紙の彫り方、形の種類や模様にいたるまでの細かい解説を受けた。
- 第5回 「版表現について」
講 師：瑞慶山 昇（沖縄県立博物館指導主事）
期 日：8月27日（水）
内 容：版表現仕方、博物館所蔵品、浮世絵版画の歴史等について、実物やスライドを通して学んだ。
- 第6回 「土器の見かた、楽しみ方」
講 師：當眞嗣一（沖縄県立博物館学芸課長）
期 日：9月3日（水）
内 容：やきものと人間の関わりについて、縄文時代から今日の日常生活用品を通して解説を行った。
- 第7回 「沖縄の祭り」
講 師：當間一郎（沖縄県立博物館館長）
期 日：9月17日（水）
内 容：沖縄の祭りの分類（祖靈を祀る 来訪神を招く 豊作・豊漁祈願 惠靈を祓いのける その他）について学習し、実例の祭りを通して細かい解説を受けた。
- 第8回 「博物館におけるボランティアの役割」
講 師：前田真之（沖縄県立博物館教育普及課長）
期 日：9月24日（水）
内 容：博物館におけるボランティア活動の意義、実際の活動の様子を紹介しながらあたっている方々とその生き方について学ぶ。
- 第9回 「野鳥観察とその楽しみ方」
講 師：与那城義春（沖縄県立博物館指導主事）
期 日：10月1日（水）
内 容：野鳥観察仕方（水鳥の体型、野鳥の各部の名称、スケッチの仕方）を学習した後、スライドを通してその特徴、生態等について、学習を深めた。

2. ボランティアの登録

教育ボランティア養成講座の中から26名（教育ボランティア21名、資料収集ボランティア5名）が平成9年度登録ボランティアとして登録を行った。

3. ボランティア専門講座

「沖縄の鳴き虫とその生態」

講 師：大城安弘（鳴き虫の会顧問：沖縄総合事務局勤務）
期 日：10月3日（金）
内 容：スライドやビデオ等を活用して、沖縄に生息する鳴く虫（昆虫）の生態や特徴について学習を行った。

「沖縄の龜と葬列の実態」

講 師：名嘉真宜勝（読谷村立歴史民俗資料館館長）
期 日：10月31日（金）
内 容：スライドを活用して、沖縄における龜の運用について、地域間の相違や特徴について学習を深めた。

「ジョン万次郎と齊藤用乃助のたどった道」

講 師：島袋良徳（郷土史家）
期 日：2月6日（金）
内 容：糸満市と豊見城村内におけるジョン万次郎と齊藤用乃助のたどった道を実際に歩きながら「歴史の道散策」を行った。

「はりこのおもちゃづくり」

講 師：外 原 淳（沖縄玩具伝承友の会会員）
期 日：2月4日（水）、2月10日（火）、2月18日（水）、3月4日（水）
3月11日（水）
内 容：はりこのおもちゃの製作工程を学び、次年度の子ども体験学習事業での指導に役立てる。



解説勉強会－久高島の久高殿の前で

8 博物館を利用した研修

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然について多くのことを学びたいとの要望がたかまっています。これらの要望は、従来学校などの団体が多数しめてきたが、近年企業などからもその要望が高まってきている。

平成7年度からは、企業などが自ら主催し且つ博物館での展示見学を計画している研修に対して博物館での講演というかたちで側面的な支援を行ったり、博物館資料を活用した教育委員会の研修を博物館と共同で企画するなどの取り組みを行ってきた。

VI 収藏資料

1 収藏資料現在高

平成10年3月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	602	25,425	6	2	26,035	46,769
	動物	1,105	18,274	477	13	19,869	
	植物	15	850	0	0	865	
美術工芸	絵画	77	518	5	0	600	9,906
	書跡	510	863	48	3	1,424	
	彫刻	5	114	132	0	251	
	陶磁器	442	3,207	249	492	4,390	
	漆器	240	201	162	0	603	
	染織	1,086	1,542	10	0	2,638	
歴史資料		2,493	5,719	334	128	8,654	8,654
考古資料		8	3,582	975	15	4,580	4,580
民俗資料		2,370	1,500	586	78	4,534	4,534
総計		8,953	61,795	2,984	731	74,463	74,463

2 平成9年度(1997)新収藏資料高

平成9年4月1日～平成10年3月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質					0	41
	動物		41			41	
	植物					0	
美術工芸	絵画	2				2	64
	書跡	5	2			7	
	彫刻		1			1	
	陶磁器		5			5	
	漆器					0	
	染織		49			49	
歴史資料		387	415			802	802
考古資料						0	0
民俗資料			156	3		159	159
総計		394	667	3	0	1,066	1,066

3 平成9年度（1997）新収蔵資料目録

寄贈の部

平成9年4月1日～平成10年3月31日

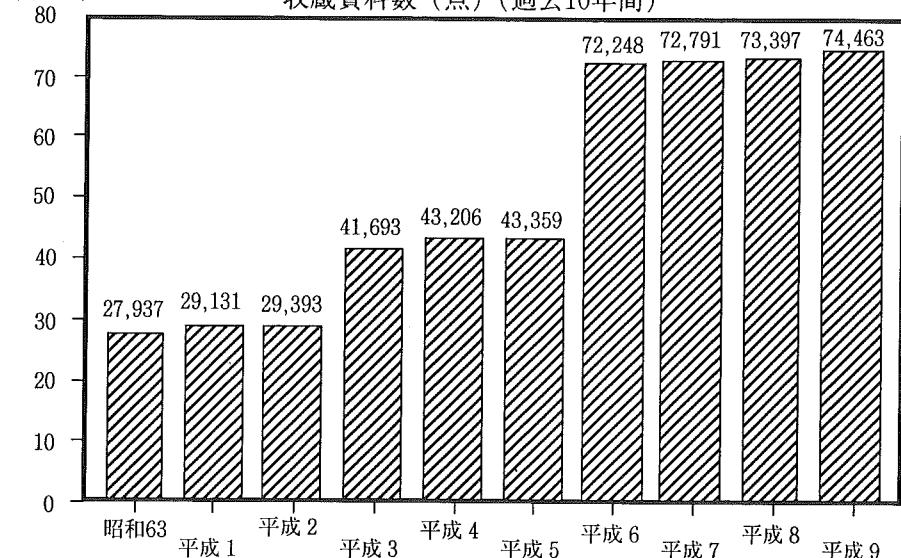
分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
自然史	動物 ツミ（本剥製）他	3	久保 弘文 沖縄こどもの国	名護市 沖縄市
	シロガシラ（本剥製）	1	伊敷 幸明	糸満市
	ホトトギス（本剥製）他	3	波照間中学校	竹富町
美術	書跡 鄭元偉書「忠孝」	1	名嘉地清子	豊見城村
	彫刻 燈籠	1	名嘉地清子 ジェームス・L・デイ	豊見城村 米国
	陶磁器 荒焼・屋根獅子	1	下地 寛清	那覇市
	焼締龍巻壺	1	新垣 栄用	那覇市
	荒焼・三耳壺	1	仲間美佐子	那覇市
	色絵鶴に松竹梅重箱	1	玉元 妙子	西原町
	荒焼・徳利	1	森竹 邦良	宜野湾市
	染織 木綿白地絹緯縫着物他	8	饒平名千代	那覇市
	苧麻紺地絹緯縫着物（宮古上布）	1	山本 彩香	豊見城村
	苧麻白地絹縫上衣	1	石野 久子	竹富町
	苧麻紺地紋入鶴亀松竹梅文様風呂敷他	38	田熊 俊子	大阪市
	唐フィーター	1	武村 豊	那覇市
芸術	歴史資料 全国スポーツレクリエーション祭関連資料	195	第10回全国スボレク祭実行委	那覇市
	全国金満家大番附他	158	伊藤 勝一	読谷村
	10円紙幣の伝達札（ビラ札）	1	翁長 良明	那覇市
	出資證券	3	賀数 幸徳	那覇市
	講談社版映画音楽名曲全集他	9	玉元 妙子	西原町
	復帰時のドルと日本円引換証	1	玉城 三郎	今帰仁村
	宣徳香炉	1	三浦 達雄	那覇市
	円覚寺礎盤（推定）	1	新垣 光子	那覇市
	日本渡航証明書（パスポート）	1	大城 次郎	那覇市
	Ryukyu（『琉球』）他	31	東恩納道子	那覇市
	『初等定量分析』（英文書籍）	1	与儀 喜邦	那覇市
	日米和親條約批准書交換證書3号（複製）	4	琉米歴史研究会	中城村
	石油ストーブ他	2	國場 初子	那覇市
	法帖「薰三種墨迹合冊」他	7	名嘉地清子	豊見城村
民俗資料	琉球人形	4	玉元 妙子	西原町
	御殿型厨子甕	2	㈱琉球メモリアルパーク	沖縄市
	甕型厨子甕他	17	玉城 實	那覇市
	バランボーチ（ススキ製箒）	2	兼浜 信規	豊見城村
	御殿型厨子甕	1	山里 景春	那覇市
	屋根獅子他	2	神谷 嘉信	東風平町
	ソニー製音響機器・レコード他	80	祖慶 剛	那覇市

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
民俗資料	ヤーシグワー(改良型)他	2	祖慶 良栄	那霸市
〃	獅子舞衣装一式	1	多良間朝時(在沖多良間郷友会)	那霸市
〃	クバ簀他	5	大田 守貞	那霸市
〃	御殿型厨子甕	2	池原 洋志	南風原町
〃	ウーバーラ	1	仲間美佐子	那霸市
〃	京胡	1	仲宗根文子	宜野湾市
〃	徳利他	2	仲底 信	竹富町
〃	トゥージ(石製水甕)	1	仲里 宜博	粟国村
〃	海フゾー	1	仲里 和信	那霸市
〃	芭蕉ワンピース他	2	東恩納道子	那霸市
〃	羽釜	1	比嘉 春子	那霸市
〃	柳製旅行トランク他	3	名嘉原民子	那霸市
〃	柳行李他	24	与儀 喜邦	那霸市
〃	琉球織紙布ネクタイ他	2	當間 一郎	那霸市

購入の部

分類	品名	数量
美術	絵画 絹本著色「琉球人舞楽之図」	1
	冊封使行列図(レプリカ)	1
書跡	宜野朝保和歌短冊	2
	中山樂童子扇面	1
工芸	鄭元偉書扇面	1
	鄭元偉書軸	1
歴史資料	戦前の教科書 ※平成8年度末に購入したが整理後登録	382
	琉球封印銘	2
	沖縄女性版画	1
	戦争関係資料及び新聞	1
	Aサイン証	1

収蔵資料の年間推移
収蔵資料数(点)(過去10年間)



4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成10年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	お も ろ さ う し ク 混 効 驗 集	22冊 2冊	昭48.6.6 ク	県立博物館 ク	沖縄県 ク
工 芸	銅 鐘 (旧首里城正殿鐘)	1口	昭53.6.15	県立博物館	沖縄県
ク	梵 鐘 (旧円覚寺殿前鐘)				
ク	梵 鐘 (旧円覚寺殿中鐘)				
ク	梵 鐘 (旧円覚寺樓鐘)				

県指定文化財（有形文化財）

平成9年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1躯1枚	昭33.3.14	県立博物館	沖縄県
ク	世持橋勾欄羽目	1括	ク	ク	ク
絵 画	絹本著色花鳥図(殷元良筆)	1幅	昭54.4.9	県立博物館	沖縄県
ク	紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	ク	ク	ク	ク
ク	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	ク	昭57.4.1	ク	ク
ク	紙本着色奉使琉球図(朱雀年筆)	1巻	ク	ク	ク
工 芸	三線江戸与那	1挺	昭33.8.15	県立博物館	沖縄県
ク	聞得大君御殿雲龍黃金簪	1本	昭33.3.14	ク	ク
ク	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1台	昭31.12.14	ク	ク
ク	黒塗堆錦山水絵大文庫	ク	ク	ク	ク
ク	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3口	ク	ク	ク
ク	枝梅竹文赤絵碗	1口	昭54.9.3	ク	ク
ク	線彫染付魚文皿	ク	ク	ク	ク
ク	色象嵌粟絵菊花钱	ク	ク	ク	ク
ク	象嵌色差面取抱瓶	ク	ク	ク	ク
ク	梵 鐘 (旧靈應寺鐘)	1口	昭60.6.1	ク	ク
ク	梵 鐘 (旧普門禪寺鐘)	ク	ク	ク	ク
ク	梵 鐘 (旧天竜精舍鐘)	ク	ク	ク	ク
ク	梵 鐘 (旧天尊殿鐘)	ク	ク	ク	ク
ク	梵 鐘 (旧天妃宮鐘)	ク	ク	ク	ク
ク	梵 鐘 (旧一品権現鐘)	ク	ク	ク	ク
ク	銅鐘 残欠(旧波上宮朝鮮鐘)	ク	ク	ク	ク
ク	梵 鐘 (旧大安禪寺鐘)	ク	昭63.1.12	ク	ク
ク	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2.2.6	ク	ク
ク	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1脚	ク	ク	ク
ク	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1合	ク	ク	ク
ク	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	1口	ク	ク	ク
ク	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	ク	ク	ク
ク	梵 鐘 (旧永福寺鐘)	1口	ク	ク	ク
ク	三線盛嶋開鐘	1挺附胴	平6.3.15	ク	ク
典 籍	評定所格護定本中山世鑑	6冊	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
ク	ク 中山世譜	19冊	ク	ク	ク
書 跡	程順則の書	1巻	昭42.4.11	県立博物館	沖縄県
ク	扁額「徳高」鄭元偉書	1架	平元.9.29	ク	ク
ク	扁額「凌雲」林麟焮書	1架	ク	ク	ク
古 文 書	宮古島下地の首里大屋への辞令書	1幅	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
ク	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49.11.11	ク	ク
ク	伊平屋島仲田の首里大屋への辞令書	1幅	昭53.4.1	ク	ク
ク	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56.3.20	ク	ク
歴 史 資 料	安国山樹花木記碑	1基	平元.9.20	県立博物館	沖縄県

5 博物館収蔵資料整理事業

I. 事業の目的

県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として51年の歴史を持ち現在74,463件の資料が収蔵されている。その約50年間に合併、移転さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料の整理作業が統一を欠き、資料管理が未整備の状況である。したがって、平成12年以降の新館開館移転のためにも、統一された資料の整理作業を早急に行い、未登録資料の整理登録、収蔵資料の整理・保管等収蔵資料の移動にもれがないよう効率的に移転準備作業をスムーズに行わなければならない緊急性がある。また、県民及び来館者のニーズに応えるためには、収蔵品台帳・原簿等による収蔵資料の管理保管だけでなく、収蔵品台帳の電子化作業を進めることにより、利用に応じた資料一覧の作成、資料検索等が可能になるように収蔵資料管理システムを充実させ、さらには博物館案内及び資料検索用端末の設置等を早急に整備する必要性がある。この台帳電子化（コンピュータ化）の過程には、充実した画像資料（図版、写真、映像等）の裏付けが必要であり、博物館の収蔵資料を広く来館者に公開するには、文字データとともに画像データ（図版、写真、映像等の資料）のデータ整備が不可欠である。

II. 事業の内容

資料整理事業はこれまで、次の3つの作業分野に分けて実施してきた。

◎収蔵資料整理作業

- 収蔵資料の台帳整理・未登録資料の整理登録
- 収蔵資料へのナンバーリング
- 保管庫の設置（プレハブ）
- 写真パネル等の整理（台帳作成とナンバーリング）

◎台帳電子化（コンピュータ化）作業

- データベースシステムの開発・導入・運用
- 収蔵資料データ入力（文字・画像データ）

◎写真撮影及び写真整理作業

- 収蔵資料の写真撮影と写真・フィルムの整理・保管

III. 平成9年度事業実績（予算額：14,196千円）

平成9年度は特に以下の事業を中心に実施した。

（1）資料整理作業

- 資料整理用プレハブの継続設置
- 各分野収蔵資料の整理（台帳照合及び未登録資料の整理等）
- 厨子甕の整理（委託、数量：260基）
- 講堂舞台裏の資料整理棚の設置（委託）
- 地下収蔵庫自然史資料整理棚の設置（委託）
- 自然史資料の剥製製作（委託）

（2）台帳電子化（コンピューター化）作業

- 収蔵資料管理用データベースシステムの充実（ハード・ソフトの増設）
- 収蔵資料管理用データベースへのデータ入力
- システムのメンテナンス・拡張（委託）

(3) 写真撮影・マイクロ写真製作

◎収蔵古写真の複製・整理（委託）

◎歴史資料のマイクロ化（委託）

備考：平成10年度以降も継続して事業を行う予定である。

VII 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
平成9年度沖縄県立博物館年報	定期	1,000	B5(92)	前年度の当館の活動状況や概要
沖縄県立博物館紀要 第24号	定期	1,000	B5(174)	学芸員の調査研究報告書
特別展「アルゼンチンの大恐竜展－南米の古生物－」図録	不定期	2,000	A4(56)	4月25日から6月8日まで開催された同特別展の図録
「平成8年度新収蔵品展」図録	定期	1,000	B5(16)	平成8年度に寄贈・購入・収集等で収蔵された資料を紹介する収蔵品展の図録
波照間島総合調査報告書	不定期	1,000	B5(304)	平成7年から8年にかけておこなわれた波照間島の調査報告書
博物館教育普及書 「沖縄県の探鳥地ガイド～バードウォッチングにいってみよう～」	定期	1,000	A4(128)	沖縄県内の探鳥地についてわかりやすく解説した教育普及書
平成9年度子ども体験学習教室	定期	1,000	A4(68)	平成8年度の教育普及事業としての児童生徒を対象とした体験学習の記録
平成9年度ボランティア活動	不定期	1,000	A4(73)	平成8年度のボランティア活動記録集
年間行事案内リーフレット	定期	10,000	A4 三つ折り	当年度の行事案内
年間ポスター	定期	1,000	B2 変形	当年度の年間行事案内
日本文リーフレット	定期		A4 変形	当館の展示内容紹介
移動博物館リーフレット	定期	2,000	B5(4)	与那国島で開催された移動博で展示する資料を紹介したリーフレット
移動博物館チラシ	定期	2,000	B5	与那国島で開催された移動博を案内したチラシ
移動博物館ポスター	不定期	50	A2	与那国島で開催された移動博を案内したポスター

VIII その他の活動

1 資料貸出

- (1) 展示会名：日本文化のあけぼの
主 催：国立歴史民俗博物館
開催場所：国立歴史民俗博物館
貸出期間：平成9年4月1日～平成10年3月31日
貸出資料：考古資料／市来式土器
- (2) 展示会名：特別展「南海の国・沖縄をたずねて」－沖縄復帰25周年記念展－
主 催：郵政研究所附属資料館（通信総合博物館）
開催場所：同上
貸出期間：平成9年4月18日～5月19日
貸出資料：美術工芸資料／染織（6）陶磁器（5）漆器（3）原画（58）
歴史資料2点／民俗資料10点／自然史資料9件
- (3) 展示会名：『包むこころ ふろしき展』
主 催：毎日新聞社他
開催場所：東京・大阪・茨城・神奈川・青森・山梨（巡回）
貸出期間：平成9年5月12日～平成10年12月31日まで
貸出資料：美術工芸資料／紅型風呂敷13点
- (4) 展示会名：企画展「南の手仕事・北の手仕事－沖縄と東北」
主 催：南の手仕事・北の手仕事展実行委員会／仙台市博物館
開催場所：仙台市博物館
貸出期間：平成9年10月20日～平成9年12月8日
貸出資料：美術工芸資料／陶磁器（8）染織資料（37）民俗資料（1）
- (5) 展示会名：常設展
主 催：沖縄県立平和祈念資料館
開催場所：同上
貸出期間：平成9年5月30日～平成10年3月31日
貸出資料：美術工芸資料6件
- (6) 展示会名：琉球切手が語る沖縄の戦後史展
主 催：大宜味村教育委員会／琉球切手が語る沖縄の戦後史展実行委員会
開催場所：大宜味村
貸出期間：平成9年7月30日～8月4日
貸出資料：美術工芸資料／琉球切手原画5点

(7) 展示会名：『人間国宝 金城次郎陶芸70年の軌跡展』

主 催：沖縄タイムス社／株式会社 沖縄三越

開催場所：沖縄三越

貸出期間：平成9年8月1日～8月20日

貸出資料：美術工芸資料／金城次郎作品13件22点

(8) 展示会名：開館15周年記念特別企画展『琉球列島の不思議な生き物たち』

主 催：本部町立博物館

開催場所：同上『町民ギャラリー』

貸出期間：平成9年8月7日～9月30日

貸出資料：自然史資料／剥製11点

(9) 展示会名：沖縄空手・古武道世界大会「沖縄空手・古武道資料展」

主 催：沖縄空手・古武道世界大会実行委員会

開催場所：沖縄県立武道館 錬成道場1階

貸出期間：平成9年8月21日～8月24日

貸出資料：美術工芸資料／琉球切手原画他7件・民俗資料／武具2件

(10) 展示会名：特別展「南の森の不思議な生きもの」

主 催：千葉県立中央博物館

開催場所： 同上

貸出期間：平成9年9月16日～12月20日

貸出資料：自然史資料／剥製14点

(11) 展示会名：開館記念『陶磁器に見る大交易時代の沖縄とアジア』

主 催：那覇市立壺屋焼物博物館

開催場所： 同上

貸出期間：平成9年12月4日～平成10年3月27日

貸出資料：考古資料／元青花磁器片（勝連城出土）

(12) 展示会名：黎明館企画特別展「海上の道—鹿児島の文化の源流を探るー」

主 催：鹿児島県歴史資料センター黎明館

開催場所： 同上

貸出期間：平成10年1月26日～平成10年3月15日

貸出資料：美術工芸資料／御絵図6点

2 燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈並びに収集活動で得た文化財や資料が約7万点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の燻蒸による害虫駆除を行っている。

平成9年度は7月14日から7月18日までの期間をあてて実施した。地下・1階・2階の

各収蔵庫のほかに、各展示室、首里城正殿模型、徳高扁額、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって燻蒸し、その他の事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行った。

3 沖縄県立博物館協議会

第1回 日 時：平成9年8月21日（木）(11:00～17:00)

場 所：県立博物館会議室

1. 会議事項

- (1) 特別展・企画展等事業実施状況について
- (2) 教育普及事業等実施状況について
- (3) 沖縄館資料受入について
- (4) 新館建設事業（展示計画）について
- (5) その他

第2回 日 時：平成10年2月20日（金）(11:00～17:00)

場 所：県立博物館会議室

1. 会長あいさつ

2. 会議事項

- (1) 予算の概要について
- (2) 特別展等事業概要について
- (3) 教育普及事業等概要について
- (4) 龍潭線の拡張計画について
- (5) その他

3. 閉 会

沖縄県立博物館協議会委員会名簿

（平成8年6月1日～平成10年5月31日）

	氏 名	所 属	職 名
学識経験者	翁 長 自 修	琉球大学教育学部 （美術工芸）	教 授
	新 城 和 治	元琉球大学 （自然史）	元教授
	金 城 正 篤	琉球大学法文学部 （歴 史）	教 授
	嵩 元 政 秀	沖縄考古学会 （考 古）	会 長
	上江洲 均	名桜大学国際学部 （民 俗）	教 授
学校教育 関係者	仲 田 典 爾	前島小学校	校 長
	多和田 真 勇	元首里中学校	元校長
社会教育 関係者	山 内 晴 子	沖縄県婦人連合会	理 事
	島 袋 光 尋	沖縄県P T A活動安全互助会	顧 問
	新 城 紀 秀	沖縄県社会教育委員会議	議 長

4 沖縄県博物館協会

平成9年度は沖博協の創立20周年にあたり、平成9年5月22日、総会および春期研修会にあわせて沖博協20周年記念式典が挙行された。

定期総会では、平成8年度の事業報告及びその承認、新役員の承認、新規加盟館の紹介などの後、念願の新編「沖縄の博物館ガイド」を来年度に発行することがきまった。

総会後、昼食時間を利用して、県博で開催されている特別展「アルゼンチンの大恐竜展」を見学。午後から記念式典に移り、会長あいさつ、来賓あいさつ、沖博協20年の歩みの報告の後、創立以来沖縄県博物館協会の役員を務め協会に貢献の大きかった曾根信一（個人）、仲嶺俊子（沖縄貝殻標本館）、大林正宗（東南植物楽園）、山内平三郎（南都計画）、上江洲均（名桜大学）各氏の表彰があった。

記念講演は、京都橘女子大学教授の千地方造先生の「これから博物館」。内容は、我が国における近代博物館の導入から現在にいたる明治以来の博物館の歴史の話から始まり、1950年に博物館法が制定されてから、日本の博物館の数が急激に増えてきたことに触れ、戦後の経済的基盤が良くなり、心のゆとりが出て来たために、文化的欲求が高まり、地方政府の中で、町お越し・村お越しの拠点となってきたことの紹介。反面、どの博物館も同じようなパターンの展示が多いことの指摘。博物館の性格と中身が多様化してきた現在、地域と博物館の結びつきは重要であり、創意工夫して自慢できるわが町の博物館を作らなければならぬのでは、と提起があった。

また、これから博物館の在り方として、群馬県立自然史博物館と滋賀県琵琶湖博物館を例にとりながら説明し、博物館は知的活動の導入を担うところ、展示によって何かも見せる・教えるところではない、博物館は知りたい人への情報を提供する情報庫のような役割を担うところ、市民が参加して地域文化の掘り起こしをし、市民とともに学び、楽しむところ、つまり、地域丸ごとの博物館といった考え方が重要であることを強調した。講演の後、夕方から20周年記念レセプションがもたれた。

平成9年度沖縄県博物館協会の秋期研修会は、11月13日（木）～14日（金）の2日間、多良間村中央公民館で開催された。奄美・県内各地から29名、現地の多良間村からも多数の参加を得て開催された。

1日目は、多良間村ふるさと民俗学習館館長渡久山春好氏の「多良間村の歴史と文化」の講演。渡久山春好館長自ら編纂された「多良間の文化と歴史」の冊子をもとに、伝説に残る人物と集落からはじまり、記録に残る多良間、考古学に見る多良間、近世の多良間と、盛りだくさんの内容をもった講演であった。講演は、地域の文化と歴史を考える上で、たいへん示唆に富んだものであった。特に印象に残ったのは、「人頭税制度下の農民の苦悩と抵抗」の話で、多良間ジョンガネで有名なウェーム。マに対する独自の解釈と「横穴式墓についての考察」であった。

講演会終了後、6時からは懇親会に移り、遠来の参加者のため、ヒーヒヤー料理が用意され、心温まる懇親会であった。



多良間村ふるさと民俗学習館の展示風景

2日目は、次のコースで現地研修がもたれた。塩川御嶽と福木並木→ピイ・トゥマタウガム。→シュガーガー→寺山→多良間神社→ウプメーク→アマガ→運城御嶽→里之子の墓→宮古遠見台→泊御嶽→イビの拝所・ウェーム・マの碑・仕上世所跡→慰靈の塔→土原ウガム。→八重山遠見台→民俗学習館→抱護林→報恩の碑。

1月30日念願の新版「沖縄の博物館ガイド」が発行された。

5 博物館実習

県内の3つの大学では、現在、博物館学芸員資格取得のための博物館学の講座が開設されているところである。本館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度からは沖縄国際大学の学生を実習生として受け入れることになり、さらに平成7年度から琉球大学でも同科目が開設されたことに伴い、実習生を受け入れてきた。また、平成9年度には、新たに沖縄県立芸術大学からの実習生を受け入れた。

県内大学からは琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立芸術大学の3大学からの学生を対象とし、県外大学からの実習生については、地もと出身の学生を対象として受け入れてきた。平成8年度までに県内外の大学から60名の実習生を受け入れ実習指導を行ってきた。

平成9年度は、琉球大学15名、沖縄国際大学8名、沖縄県立芸術大学15名の他に放送大学1名、茨城大学1名、成蹊大学1名、京都造形芸術大学1名、名古屋芸術大学1名、を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員、及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

1. 実習科目と指導学芸員

- (1) 博物館の施設（吉里 功）
- (2) 博物館の予算・経理（上地 泰順）
- (3) 保存施設と保存環境（吉里 功）
- (4) 博物館の管理運営（當間 一郎）
- (5) 特別展（恐竜展）の実際（神谷 厚昭）
- (6) 博物館関係法規・組織・博物館関係団体（新垣 隆雄）
- (7) 学芸業務の考え方と実際（當眞 嗣一）
- (8) 自然史資料取扱実習（与那城 義春・嵩原 健二）
- (9) 教育普及の考え方と実際（瑞慶山 昇）
- (10) 博物館活動の概要（當眞 嗣一）
- (11) 実習日誌記録（當眞 嗣一）
- (12) 自然史資料取扱実習（地質・岩石）（神谷 厚昭）
- (13) 展示解説の実際と教育普及補助業務（上原 敏子・喜久川 智子）
- (14) 美術工芸資料（染織・書跡）取扱実習（與那嶺 一子）
- (15) 教育普及活動（瑞慶山 昇・仲底 善章・仲間留美）
- (16) 民俗資料取扱実習（太田 健一）
- (17) 歴史資料取扱実習（萩尾 俊章）
- (18) 博物館資料受入れ・分類・登録・原簿記載実習（與那嶺 一子）
- (19) 博物館資料の取扱（与那城 義春・嵩原 健二・津波古 聰・萩尾 俊章・太田 健一）
- (20) 考古資料の取扱実習（當眞 嗣一・仲間 留美）

- (21)美術工芸資料（漆器・陶器・絵画）取扱実習（津波古聰）
- (22)博物館資料の展示方法（津波古聰・太田健一）
- (23)博物館資料の撤収方法（津波古聰・萩尾俊章・嵩原健二）

2. 実習期間

第1回 沖縄国際大学・琉球大学・茨城大学・成蹊大学・京都造形芸術大学・放送大学・名古屋芸術大学

平成9年 6月2日（月）～6月13日（金）

第2回 琉球大学・沖縄国際大学

平成9年 8月25日（月）～9月5日（金）

第3回 沖縄県立芸術大学

平成9年 12月1日（月）～12月12日（金）

3. 実習生

第1回 沖縄国際大学（5名）・琉球大学（3名）・茨城大学（1名）・成蹊大学（1名）・京都造形芸術大学（1名）・放送大学（1名）・名古屋芸術大学（1名）

志良堂 美智代 沖縄国際大学文学部社会学科

上 原 堅次郎 沖縄国際大学文学部社会学科

赤 嶺 須賀子 沖縄国際大学文学部社会学科

比 嘉 一 美 沖縄国際大学商経学部商学科

安谷屋 耕 治 沖縄国際大学商経学部商学科

池 田 千代子 琉球大学法文学部人文学科

大 城 涼 子 琉球大学法文学部人文学科

砂 川 剛 琉球大学聴講生

安 里 利 大 茨城大学人文学部社会学科

新 垣 和 也 成蹊大学文学部文化学科

一ノ宮 由 永 京都造形芸術大学芸術学部芸術学科

玉 寄 恵 子 放送大学（琉球大学）

金 城 朝 之 名古屋芸術大学芸術学部

第2回 琉球大学（12名）・沖縄国際大学（3名）

松 林 良 和	琉球大学教育学部社会科学科	4年
---------	---------------	----

神 崎 綾	琉球大学教育学部国語科	4年
-------	-------------	----

大 城 理 咲	琉球大学法文学部人文学科	4年
---------	--------------	----

小手川 哲 平	琉球大学法文学部人文学科	4年
---------	--------------	----

長 嶺 里 子	琉球大学法文学部人文学科	4年
---------	--------------	----

浜 口 馨 子	琉球大学法文学部人文学科	4年
---------	--------------	----

中 所 亜 紀	琉球大学法文学部人文学科	4年
---------	--------------	----

當 山 直 美	琉球大学理学部生物学科	4年
---------	-------------	----

春 野 奈留美	琉球大学理学部生物学科	4年
---------	-------------	----

筒 井 茂 広	琉球大学理学部海洋学科	4年
中 島 早 苗	琉球大学理学部海洋学科	4年
仲 本 盛 浩	琉球大学聴講生	
名嘉真 朝 紀	沖縄国際大学文学部社会学科	4年
藏 元 雅 美	沖縄国際大学文学部社会学科	3年
山 城 利 清	沖縄国際大学文学部社会学科	3年

第3回 沖縄県立芸術大学(15名)

佐 藤 亜希子	絵 画	3年
太 田 真 光	芸 術 学	3年
荻 原 みゆき	芸 術 学	3年
仲栄真 り サ	芸 術 学	3年
西 村 瞳 美	芸 術 学	3年
三 上 曜 寿	芸 術 学	3年
稻 福 千 寿	デザイン	3年
後 藤 歩	デザイン	3年
新 垣 亜矢乃	工 芸	3年
宇 良 京 子	工 芸	3年
岡 野 宏 宣	工 芸	3年
白 井 和 美	工 芸	3年
譜 久 原 牧 子	生活造形	院2年
黒 河 裕 孝	聴 講	
比 嘉 孝 子	聴 講	



第1回実習の美術工芸資料取扱実習風景

6 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから17年目を迎えた。その間会員も増加の傾向にあり、友の会の活動も年間をとおしての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。1997年度決算報告書による実績は、

13,637,709円であった。また、会員は650名、賛助会員8名、準会員が8名（『博友』第1号による）となっている。

1998年5月18日（月）には1998年度の総会が本館講堂で開かれ、新役員や予算および事業計画等が審議・決定されて新たな活動を開始した。

1998年度に実施した活動の概要と事業内容は次のとおりである。

1. 事業

- (1) 親子自然観察会：5月31日（土）
末吉公園でホタルの観察会を佐藤文保氏の解説で実施した。参加者：24名
- (2) 首里周辺めぐり：6月28日（土）
宮里朝光氏の案内で、上儀保をまわる。 参加者：20名
- (3) 星座観察会：7月5日（土）～7月6日（日）
玉城少年自然の家で宮城勉氏の解説で星座の観察会を実施した。 参加者：20名
- (4) 離島めぐり：7月12日（土）～7月13日（日）
渡名喜島の歴史・文化・自然について神谷厚昭、野村宏両氏の解説で実施した。
参加者：20名
- (5) 海外研修（台湾）：8月21日（木）8月24日（日）
宮城昌保氏を講師に、台湾の少数民族のくらしなどを学ぶ 参加者：35名
- (6) 自然めぐり（西表島）：8月2日（土）～8月5日（火）
西表の自然について長嶺邦雄、新城安哲両氏の解説で実施した。 参加者：33名
- (7) 那覇市内史跡めぐり：9月13日（土）
阿波根直孝氏の案内により、旧真和志の史跡をまわる。 参加者：30名
- (8) 県外研修旅行：9月20日（土）～9月23日（水）
「毛利氏の史跡を訪ねて」をテーマに与儀達憲、前田真之の両氏の解説により実施。
参加者：36名
- (9) 文化キャラバン隊：10月17日（金）～10月19日（日）
移動博物館與那国開催にともない、会場の與那国小学校で展示案内を行う。
参加者：7名
- (10) 南部の史跡めぐり：10月26日（日）
當眞嗣一氏の解説により、知念、佐敷、玉城のグスクをまわる。 参加者：44名
- (11) 首里周辺めぐり：11月22日（土）
首里上儀保の旧跡を宮里朝光氏の解説で実施した。 参加者：25名
- (12) グスクめぐり：11月30日（日）
野村宏、与儀達憲の両氏の案内により、具志頭村、玉城村東部の史跡をまわる。
参加者：44名
- (13) 那覇市内の史跡めぐり：12月6日（土）
「繁多川・識名マーメイ」を阿波根直孝氏の解説で実施した。 参加者：19名
- (14) 自然めぐり：2月14日（土）
金武町億首川流域のマングローブ林の観察を鶴田幸一氏の解説で実施した。
参加者：23名
- (15) 展示解説会：2月28日（土）
歴史展示室の解説会を萩尾俊章学芸員の解説で実施した。 参加者：23名
- (16) 野鳥観察会：2月21日（土）＊雨のため中止

(17) 講演会：3月28日（土）

高良倉吉氏が「琉球社会の変容－伝統文化の歴史的背景－」というテーマで講演を行う。参加者：113名

2. 会員への情報提供

- 博物館事業および催し物の案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内および文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

3. 会誌「博友」・会報「赤い瓦」の発行

4. ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・玩具・テレホンカード・フィルム・飲み物等の販売サービス

5. その他

- サークル活動の実施：歴史サークル、グスクサークル、拓本サークル

IX 日誌抄

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

平成9年

- 4月15日 安室 教育長来館（金城総務課長随行）
4月23日 県定期会計監査～24日（大嶺課長、知花主幹）
4月25日 特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開会式
　　○教育長（安室）、琉球新報社専務理事（比嘉）、沖縄県アルゼンチン協会事務局長、群馬県自然博物館館長（長谷川）
5月4日 神奈川県立博物館館長（相馬氏）来館
5月6日 沖博協理事会
5月13日 県立芸大実習生受け入れについて（話し合い）
5月15日 波照間島総合調査第1回調査検討会
5月17日 第270回文化講座「群馬県立自然博物館長谷川善和館長」
5月20日 博物館友の会総会
5月22日 沖縄県博物館協議会20周年総会及び記念式典及び記念講演
　　○講師 京都橋女子大学 千地 万造氏
　　沖縄県博物館協議会20周年記念式典のため教育長代理として、参事 島 榮孝氏来館
5月23日 県監査委員会委員監査
　　○委員 金城千春
　　参事 与那覇幸輝
5月27日 文化課・博物館連絡会議
6月2日 学芸員実習～6月13日
6月25日 韓国要人来館
　　○明和大学校教授
　　韓国沖縄学会長 洪鍾（ホン・ジョン・ビル）
6月27日 日大教授（小山氏）来館
6月27日 台風8号暴風警報発令 職員自宅待機
7月13日 中国国家教育委員会代表団 来館
　　○団長 周遠清（zhou yuan qing）外
　　○津嘉山教育次長随行
7月14日 館内全館熏蒸～7月18日
7月27日 文部省洋上研修団員来館
7月28日 県財政課川満主査収蔵庫状況調査で来館（文化課大浜主幹随行）
7月29日 平成8年度新収蔵品展～8月31日
　　○開会式並びに感謝状贈呈
8月7日 暴風警報発令 臨時休業
8月17日 台風13号暴風警報発令 臨時休業
8月21日 沖縄県博物館協議会会議
8月25日 博物館実習～9月5日
8月28日 名桜大 上江洲教授外学生来館

- 8月28日 定通高校長会来館
- 9月21日 亜熱帯総合研究所（仮称）整備構想検討会 伊藤政男 日本学術会議会長外
14名来館
- 9月26日 特命全権大使 青木盛久（元ペルー大使）来館
- 10月17日 第22回移動博物館（与那国町）開催～9月19日
- 10月22日 岐阜県議会一行来館
- 11月19日 国立歴史民族博物館資料課長補佐柳沢久男氏外来館
- 11月21日 法務省 横山政務次官来館
- 11月22日 小野元文部省大臣官房長来館
隨行：岩崎 司 琉球大学事務局長
大元正康 ヶ 庶務部長
- 12月1日 県立芸大学芸員実習始める～12月12日
- 平成10年
- 1月27日 最高検察庁検事総長 土肥孝治氏来館
- 2月1日 ハワイ沖縄県人連合会専務理事 本田孝雄氏
ハワイ沖縄連合会文化顧問 金城 靖氏
〃 〃 宮野アルバート肇来館
- 2月24日 石川県輪島漆芸美術館 館長 松原政義氏
我孫子市島の博物館 館長 和田幹雄外3人来館
- 2月27日 国立公文書館 庶務課長 正田隆基氏ほか2人来館
- 3月11日 中国社会科学院考古研究所一行来館
副所長 鳥恩ほか
遼寧省文物考古研究所所長 辛占山ほか来館
朝陽市博物館 館長 田立 坤 来館
- 3月18日 国立科学博物館教育部企画課教育ボランティア活動推進室長 石川 昇氏来館
- 3月19日 中国第一歴史档案館館長 那永福
〃 周忠信ほか2人来館
- 3月24日 岡山市議会市民クラブ行政視察で来館
串田 務氏ほか7名

X 関係法規抄録

○博物館法

昭和26. 12. 1
法律第285号

[最近改正] 平成5・11・12法律第89号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民族、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法にある公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の

利用の便を図ること。

(9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務に掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

(1) 学士の学位を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの

(2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの

(3) 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者

2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、

左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
- (2) 名称
- (3) 所在地

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図画、当該年度における事業計画書及び予算の歳出見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知ったときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の中請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取り消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物

館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の義務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する軽費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

(1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。

(2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部大臣が、他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、交付の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令

昭和27. 3. 20
政令第47号

[最近改正] 昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、交付の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例

昭和47. 5. 15
法律第24号 (抄)

[最終改正] 平成6年12月27日条例第42号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基き、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

- 2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則 昭和47. 5. 15 教育委員会規則第2号 (抄)

[最終改正] 平成8年4月1日教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関すること。

(2) 公印の管守に関すること。

(3) 施設設備の管理に関すること。

(4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。

(5) 博物館協議会に関すること。

(6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

(1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。

(2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。

(3) 博物館資料の監査、貸出し及び交換に関すること。

(4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

(1) 博物館資料の利用相談に関すること。

(2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。

(3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則

昭和47. 5. 15
教育委員会規則第2号

[最終改正] 平成7年5月2日教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する所帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示をうけなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（こどもの日及び文化の日を除く。）
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもつて、これを替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。
(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申請書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 委託を決定したものについては、委託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。
(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を鑑観しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

第16条の2 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条の規定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合

(2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合

(3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第4号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。
(入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認める者

(2) 伝染病患者及びめいていき者と認められる者

(3) その他館長が適当でないと認める者

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第5号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可する

ことができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わつたときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならぬ。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附則（平成元年3月31日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附則（平成4年8月28日教育委員会規則第7号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附則（平成5年2月16日教育委員会規則第1号）

この規則は、平成5年2月16日から施行する。

附則（平成7年5月2日教育委員会規則第9号）

この規則は、平成7年5月2日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申込者 住 所 氏 名
記	
1 種 別	4 製作年月日
2 作者名	5 附属品
3 作品名	6 資料の所在地
7 時価見積額	7 寄贈の理由
8 寄贈の理由	

受 諸 書	4 製作年月日
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	
平成 年 月 日	5 附属品
	6 資料の所在地
	7 寄託期間
	平成 年 月 日 から 年 月 日 まで

博物館資料寄託申請書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申込者 住 所 氏 名
記	
1 種 別	4 製作年月日
2 作者名	5 附属品
3 作品名	6 資料の所在地
4 製作年月日	7 寄託期間
5 附属品	平成 年 月 日 から 年 月 日 まで
6 資料の所在地	
7 寄託期間	
8 寄贈の理由	

第3号様式（第11条関係）

第4号様式（第16条の2関係）

博物館資料受託承認書		平成 年 月 日	平成 年 月 日
般	冲縄県立博物館長	申請者住所	申請者住所
	冲縄県立博物館長	氏名	氏名
		電話	電話
<p>平成 年 月 日付け申請のあった博物館の寄託については、下記により受託します。</p> <p>記</p>			
1 種別	年から	年まで	
2 作者名	月	月	
3 作品名	日	日	
4 製作年月日	時～	時～	
5 附属品			
6 受託期間	年	年	
	月	月	
	日	日	
7 備考	年	月	年
	月	日	月
	付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。	承認証	沖縄県立博物館長

入館料免除申請書		平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿		申請者住所
申請者住所	氏名	氏名
	電話	電話
<p>下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の2第2項に基づき申請します。</p> <p>記</p>		
1 入館者 団体名	引率者名	
2 入館者数 人		
3 入館日時 年 月 日（曜日）		
4 申請理由		
<p>年 月 日 付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。</p> <p>年 月 日 沖縄県立博物館長</p>		

博物館施設使用許可申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者氏名 _____ 印

電話 _____

下記により貴館施設を使用したいので許可してくださるようお願いします。

記

1 使用者

団体名 _____ 及び
代表者名 _____ ㊞ 職業()
住所 _____ 電話 _____

2 使用目的

3 使用する施設： 1 ホール 2 臨時陳列室

4 使用する日時及び期間

自：平成 年 月 日 午 時 分 ()

至：平成 年 月 日 午 時 分 日間

5 予定参加人員 人

6 その他必要な資料（プログラム等）

許 可 書

月 日付申請の() 使用の件、申請どおり許可します。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長

㊞

○沖縄県立博物館協議会規則

昭和47. 10. 2
教育委員会規則第29号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関して必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例

昭和47. 5. 15

条例第37号

〔最終改正〕 平成9年5月20日条例第12号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附則（平成9年5月20日条例第12号）

この条例は、平成9年6月1日から施行する。

別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.31

1998年7月20日発行

編集・発行：沖縄県立博物館

住 所：〒903-0823 那覇市首里大中町1-1

TEL 098-884-2243

FAX 098-886-4353

印 刷：(株)尚生堂

住 所：〒901-2114 浦添市安波茶448

TEL 098-876-2232

FAX 098-876-2332

1998(平成10)年度 沖縄県立博物館年間行事一覧表

○特別展

包むこころ ふろしき展 1998年11月17日(火)～12月20日(日)

○企画展

新収蔵品展 1998年 8月18日(火)～9月27日(日)

琉球王国時代の植物標本展 1998年 7月10日(金)～8月 9日(日)

○第23回 移動博物館—伊是名村—

1998年10月17日(土)～10月18日(日)

○博物館文化講座

第280回 ハワイ・ビショップ博物館の活動 1998年 4月18日(土)

講師 太田 健一(県立博物館学芸員)

第281回 世界遺産について 5月16日(土)

講師 我那覇 念(県教育庁文化課指導主事)

第282回 生物のきた道 6月20日(土)

講師 木崎甲子郎(琉球大学名誉教授)

第283回 ペリーの日本遠征～前進基地としての琉球王国～ 7月18日(土)

講師 照屋 善彦(琉球大学名誉教授)

第284回 琉球王国時代の作物 7月25日(土)

講師 小山 鐵夫(日本大学教授)

第285回 沖縄の村踊り 9月19日(土)

講師 當間 一郎(県立博物館館長)

第286回 包むこころ ふろしき 特別展・展示解説会 11月17日(土)

講師 三瓶 清子(染織研究家)

第287回 ふろしきの文化 12月 5日(土)

講師 竹村 昭彦(染織研究家)

第288回 野鳥観察会 1999年 1月16日(土)

講師 嵩原 建二(県立博物館学芸員)

第289回 ゲスクめぐり 2月20日(土)

講師 當眞 嗣一(県教育庁文化課課長補佐)

第290回 昭和期の中城御殿 3月20日(土)

講師 真栄平 房敬(那覇市文化財調査審議会委員)

○夏休み親子文化講座(定員あり)

植物観察会 1998年 8月 1日(土)

講師 伊波 善勇(石川高校教諭)／佐久本 敏(元県立高校教頭)

新城 和治(元琉球大学教授)

沖縄の織物について 8月15日(土)

講師 宮平 初子(染織家)

標本鑑定会 8月29日(土)

講師 佐藤 文保(ZEROの森の友の会会員)／伊波 善勇(石川高校教諭)

久保 弘文(沖縄県栽培漁業センター研究員)／神谷 厚昭(県立博物館学芸員)

○子ども体験学習教室(定員あり)

芋とイモ料理づくり 4月25日(土)／5月24日(土)／9月12日(土)／9月26日(土)

講師 新垣 明(JAサンライズ西原営農指導員)

沖縄の岩石調べ 5月9日(土)／5月23日(土)／7月11日(土)

講師 我謝 昌一(那覇高等学校教諭)

古代人のくらしを体験しよう 7月25日(土)／8月2日(土)／8月16日(土)／8月22日(土)

講師 當銘 由嗣(沖縄考古学会会員)

はりこのおもちゃづくり 11月14日(土)／11月28日(土)／12月12日(土)

講師 外原 淳(沖縄玩具伝承友の会代表)

○博物館シアター

黒澤明の世界

「羅生門」 1998年 5月17日(日)

「野良犬」 6月14日(日)

夏休み親子シアター～アニメで楽しむ日本の名作～

「二十四の瞳」 7月26日(日)

「銀河鉄道の夜」 8月 9日(日)

なつかしの名作

「ローマの休日」 12月13日(日)